別添３

北海道滝川高等学校（管理機関：北海道教育委員会）【Ⅱ期３年目】の中間評価結果について

１　中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

２　中間評価における主な講評

①　研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・Ⅰ期及び経過措置の経験を踏まえ、適切に取り組まれている。今後は更に高いレベルを目指し、生徒が今まで以上に主体的・自発的に取り組むことが望まれる。

・特に育成しようとする力を明確にして目標に掲げ、それを達成するために組織的に取り組み、生徒の変容の面で大きな成果を上げている。多くの生徒が積極的に活動し、理数系への意欲が向上し、それらが理数系への大学進学実績にも現れている。

・有機的に関連付けたプログラムにするための手立てはどうなっているのか、教師全体の合意形成はどうなっているのか等を議論して共有することが望まれる。

・運営指導委員会の指導・助言を踏まえた課題研究の成果と課題の整理・分析・評価も進んでおり、今後の改善とそれに伴う成果の拡大が期待できる。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・理数科での「ライフサイエンス」は、研究の深化が期待される。課題研究の質の高まりにどうつなげていくか、３年間を見通したカリキュラムの中にどう位置付けていくのか、明確にして教育内容を見直していくことが望まれる。

・普通科での課題研究の導入は、評価できる。生徒の主体性の面で不十分な点はないか、調べ学習に留まっていないか等を検証して、課題研究の質を高めるよう工夫することが望まれる。

・理数科では、よく工夫された教育内容で生徒主体の課題研究が進められている。ただし、現在の第２・３学年の単位数で課題研究の質を高める方策が十分に機能しているか、検証が望まれる。

・ルーブリックに関しては、効果的な評価になっているのか、再検討が望まれる。

・「モデル化とシミュレーション」等の特色ある教材も開発しており、ホームページで公開していることを含め、評価できる。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・個に応じた探究の指導は重要であり、その知見を共有することが望まれる。

・普通科における「総合探究」に向けた指導体制の構築のための全校職員の協力下での計画づくりなど、指導体制の深化は、評価できる。28 展開の指導体制には実施上の苦労もうかがえるが、生徒にとっての意義は理解できるところであり、今後、どうブラッシュアップしていくのかが期待される。

・管理職がよく全体を把握し、教師が組織的に協力して有効な指導体制になっており、評価できる。

・実際の課題研究の指導を通して常に改善を図っていくようなシステムを構築することが望まれる。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・地元の短期大学の大学生が共に学ぶという方法が興味深く、成果が期待される。

・地元企業との企業協働プログラムは、事前・事後学習のプロセスや内容も含めて課題解決型の実習としては効果的と考えられる。ただし、その実践を課題研究の質の向上や教科での学習とどうつなげているのか、その道筋を明らかにしていくことが望まれる。

・部活動と外部コンテストへの参加状況も評価できるが、より多くの生徒の参加につながる支援策の検討も望まれる。

⑤　成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・全道のハブ校として様々な取組を紹介し、一層全道に成果を発信することが期待される。

・開発した教材を他校で実践してもらうなど、成果を積極的に発信していくことが期待される。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・本校における研究開発の意義と道内外へのアピールに関して、北海道の教育振興のためにも一層取り組まれることが期待される。

・「理数探究セミナー」を開催して課題研究の指導法や評価方法を広める機会を設定していることは、評価できる。「理数探究基礎」や「理数探究」の開設に具体的につなげていくことが期待される。

岩手県立一関第一高等学校・附属中学校（管理機関：岩手県教育委員会）
【Ⅰ期３年目】の中間評価結果について

１　中間評価の結果

このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される。

２　中間評価における主な講評

①　研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

・学校全体の組織的な取組が見られ、学校長のリーダーシップの下、教師の意識変容もうかがえる。
・研究開発の目的と目標を十分に把握して事業が進められているか、目的や目標に照らして生徒がどう変容してきたか、明らかにすることが望まれる。
・取組そのものは多様だが、身に付けるべき資質・能力に対する系統的な取組になるよう整理することが求められる。取組の評価も、感覚的・印象的なものに留まっていないか。特に、生徒への意識に関するアンケートは、学年が進むにつれて自覚がついてきて判断基準が変わることがあることも踏まえることが望まれる。
・研究開発組織について、校内分掌との関連も示すことが望まれる。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

・生徒の主体的な活動を中心に課題研究が進められている要素が少ないのではないか、教師側からの誘導が多く、生徒のやらされ感があるのではないか、吟味して改善することが望まれる。また、第３学年における課題研究をより充実するカリキュラムが望まれる。
・理数物理・理数生物が十分な単位数かよく吟味いただき、見直すことも望まれる。
・カリキュラム・マネジメントの姿勢は見られるが、SDGs への取組に無理がないか。
・観点別学習状況の評価とルーブリックによる評価との連動も検討が望まれる。
・各教科での授業改善に取り組んでいる点は、評価できる。その具体的な内容を示すことが望まれる。
・「課題研究指導マニュアル」の作成・活用は、評価できる。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・校内外の研修を含め、全教員が SSH 指定校として積極的に取り組んでいる。

・研究開発の目標 2 にある「豊かな人間性と創造性を育む」ことを十分に目指した指導体制となっているか、吟味することが望まれる。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・「SSH 講演会」、「高大連携講座」、「最先端理数研修」等を実施している点は、評価できる。ただし、課題研究での大学・他機関との連携、講義や講演等が生徒の主体的な取組につながっているか等を検証し、改善することが求められる。

・科学探究部に少なくない人数が在籍しており、科学系のコンテスト等に積極的に参加している点は、評価できる。一層の活性化が期待される。

⑤　成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・職員ガイダンスの実施、校内用の SSH サイトの作成、課題研究における人的配置等、成果の共有・継承が図られている点は、評価できる。一方、SSH 推進委員会や SSH 課における情報共有については、改善が求められる。

・取組の発信について、課題研究発表会のオンライン開催、文化祭での発表、ホームページによる広報等は、評価できる。

・「課題研究指導マニュアル」等の開発した教材の内容を報告書やホームページにも掲載することが望まれる。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・人的支援として加配などの配慮がなされている。

・岩手県の広さを考えると直接の交流が難しいこともあるのではないか。オンライン等での指導や助言､高等学校間の情報交換等に引き続き配慮することも期待される。

・本校の「中高一貫教育の特色を生かした課題研究の実施」、「地域理解と国際理解を高めるための取組」、「小中高大の連携」などに関する県独自の一層の支援が期待される。

宮城県古川黎明中学校・高等学校（管理機関：宮城県教育委員会）【Ⅱ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2　中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・教科横断的な授業の実践計画などが実施に移され、成果の分析・評価も含めて PDCA サイクルが機能して事業が推進されていることは、評価できる。

・運営指導委員会からの助言にも対応が取られており、研究の充実に寄与していると考えられ、評価できる。

・研究開発課題に掲げられた「探究力を備えたイノベーションリーダーの育成」の観点から事業が適切に行われていると言えるか。学校側がお膳立てをしている事業が多く、生徒の主体的な活動が弱く、探究力を育てることにあまり成功していないのではないか。主体的な課題設定力の育成を中心に、改善が望まれる。

・一つ一つの取組や授業と課題研究がどのようにつながっているのか、生徒の資質・能力がどのように育成されていくのかなど研究を構造的に捉えて改善していくことが望まれる。課題設定力や論理的・批判的思考力の育成等が課題とのことだが、その要因を分析する議論が望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・探究的な学習を進める授業改善に向けた活動は、成果が期待される。

・数学の体系的なプログラム展開には特色があり、今後の改善も含めて成果が期待される。「教科横断的カリキュラムの開発」も今後の進展が期待できる。

・ルーブリックの開発においては、観点別学習状況の評価との関係性を考慮する必要がある。

・理数系課題研究の高度化の試みとしてアドバンスコースを開設しているが、どの程度の参加人数を想定してどう全体の課題研究の質の高まりを確保しようとしているのか、その全体の具体的な手立てが必要である。

・「SS 探究Ⅱ」について、「科学英語Ⅱ」や「統計学」も入っており、課題研究の時間として十分かどうかを検証することが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・学年担当の教師と理科の教師が連携を図りながら生徒を指導する体制を構築していることは、評価できる。特に「SS 探究」については、学年指導体制や外部人材の育成が適切になされている。ただし、研究開発の課題を明確に意識した指導体制になっているか、よく吟味することが望まれる。

・教師の指導力向上にも留意しているが、教科等の専門能力の向上を図る研修も期待される。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・探究活動、授業教材開発、教員研修など多くの分野で、複数の大学、地域の研究機関から協力が得られる体制での事業推進になっており、成果も期待される。

・地域資源を大切にし、新型コロナウイルス禍においても適切かつ効果的な取組が行われている。

・自然科学部の活動が充実していることは、評価できる。自然科学部が核となり他の生徒の課題研究への波及効果をどのように構築していくのかが期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・県内の他校や他地域の SSH 指定校との情報交換や本校の研究成果の義務教育段階も含めた地域への発信に、一層取り組むことが期待される。

・今までの成果を共有する取組を積極的に取り入れるとともに、他校における実践のフィールドバックを受けるなど、研究成果を広く普及することが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・SSH 指定校への人的支援は、評価できる。ICT の環境整備も、課題研究の推進に必要であり、評価できる。

・商店街における「SSH 合同発表会」など県民を対象にした広報活動は、評価できる。

・探究活動等指導者養成講座など成果の普及の機会を設定していることは、評価できる。この成果を「理数探究基礎」や「理数探究」の開設に具体的につなげていくことが期待される。

福島県立安積高等学校（管理機関：福島県教育委員会）【Ⅱ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2　中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・教師全体の意識をよく把握する必要があるのではないか、吟味が望まれる。

・SSH で取り組む研究開発内容そのものが本校教育改革の中心という認識から校務分掌の見直しを実施し、教務部全体で運営することにしたとのことだが、継続という面から効果が期待される一方、SSH の取組を弱めないように配慮が求められる。

・「SS 探究Ⅱ」の評価が向上傾向であることも含め、より詳しい分析が期待される。そのことで課題研究を中心とした探究学習の指導法、評価法の改善に寄与できる可能性があると考えられる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・SS クラスの生徒と他の理系のクラスの生徒で、課題研究を進めるときに理科室の使用に違いがあることは教育上どうか。また、部活動でも継続して研究を行うことができる生徒と授業時間のみの生徒が公平な評価をされているかにも疑問が残る。

・SS クラス以外の普通科理系生徒の自然科学系テーマの指導も期待したい。

・地域との共創に視点をあて課題研究に取り入れることや、フィールドワークの訪問先が生徒主体で開拓されることの効果と課題の分析・公開にも期待したい。

・科目融合、教科融合、分野融合による学際的なカリキュラムの開発の困難点・成果などについて明らかにすることが期待される。

・SS クラスのみという内容も多いが、もう少し広く展開できないものか。

・単元配列表の作成や、その整合性や学習効果に関する分析と公開を期待したい。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・「SS 探究Ⅱ」は、全校体制の指導になっているなど、評価できる。ただし、SS クラスとそれ以外で指導が異なるのであれば、科目名や単位数等にも工夫が望まれる。

・アクティブラーニング研修として先進校の教師を招いた本校生徒対象の示範授業を２年連続で実施しており、教師の授業改善や課題研究を中心とした探究的な学習の指導に役立つ内容となっている。
・第２学年から SS クラスを編成してレベルの高い研究に取り組むことや、自然科学部に所属して同じテーマの研究をすることが科学技術人材の育成にどのような効果をもたらすのか、分析・公開に期待したい。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・指定前と比較して、理数系コンテストへの出場数、受賞者数は格段に増加しているとのことであり、評価できる。
・自然科学部が様々な機会に小中学生を対象にした実験コーナーを企画して自然科学への興味・関心を高める活動を行っているなど、評価できる。
・海外との研究の新しい在り方も含め、継続的な取組が期待される。タイの高等学校や県内他校と共同研究を進めている効果や、普段の授業・連携型授業にどうフィードバックできているかについて、分析と公開に期待したい。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・ホームページに多くの情報を公開しており、また、保護者・OB・受験生等の閲覧が多いとのことであり、評価できる。
・校内の教師間の共通理解や継承を図るための工夫や実践は、一層の充実が望まれる。その情報がどう保存・活用・公開されるのか、一層明らかにすることも望まれる。
・報道機関の取材が多くあり、新聞や地方のニュース番組で取り上げられている。
・開発した教材を積極的に公開し、他校が参考にできるようにしている。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・各 SSH 指定校や文部科学省、JST の情報を毎月定期的に県内の各 SSH 指定校にメールで送付し、SSH 事業に関する情報を共有するとともに、管理機関と各 SSH 指定校、各 SSH 指定校同士の連携を密にするようにしている。
・各 SSH 指定校と他の事業の指定校が、探究活動の成果を発表し、交流を行うための成果報告会を実施し、探究活動の充実を図っている。
・ホームページに SSH 事業について掲載し、成果等を適時に発信するようにしている。
・本校に対する人的支援など具体的な支援内容が確認できないが、本校の特色を踏まえた特段の支援・広報について検討し、その効果も検証することが望まれる。

茨城県立竜ケ崎第一高等学校・附属中学校（管理機関：茨城県教育委員会）【Ⅱ期３年目】の中間評価結果について

１　中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

２　中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・「問う力」を定義するなど、SSH 事業に関する学校内の共通理解を得るための取組は、評価できる。ただし、「問う力」に関する具体的な内容がなお不鮮明である。
・全ての取組で、生徒・教師、参加者等にアンケートを実施し、職員会議で報告することを原則としている。より正確な分析と伸びた力に関する調査等も期待したい。
・理系生徒の増加の要因も分析し、SSH の効果も検証することが期待される。
・ロードマップを作成して、SSH 事業の全体像を明らかにして、事業間の関係や相互効果などの可視化による効果と公開に期待したい。
・今後設置される附属中学校の取組と高等学校の取組を整理し、連続的な取組とすべく検討を続けて、プロセスのモデル作成・検証・公開を行うことを期待したい。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・SS クラスを理数系の課題研究の中心とし、課題設定から発表までの流れは、できている。理数の教科は、地学がないものの、理系を中心として充実している。
・「MATH キャンプ」や和算の学習と、課題研究の数学テーマや数学系の科学技術人材育成との関係を分析し、その成果を検討し、教材とともに公開してほしい。
・実施計画書に示す「成長サイクル」と「問う力」への着目が科学技術人材育成に有効であるかを実証し、そのプロセスをモデル化し公表することが期待される。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・「探究コーディネータ」の設定など、指導体制を整えていることは、評価できる。探究コーディネータ配置と「テーマ探索シート」の利用が、課題研究のテーマ設定にどう有効であるか、具体的な実証と成果の公開を期待したい。
・「白幡 SS 情報」の「和算の探究」は興味深いテーマだが、今後も同じ内容で続けて

いくのか。「教員全体で生徒の問いに対応する体制」とは、具体的にはどういうことか。
・全体的に見ていくと、生徒の主体性を生かすことが強調されているものの、教師の関与が強いように感じられる。例えば、テーマ設定の際のグループ討議の時間に余裕を持たせること等で生徒の主体性をより育てることができないか。
・「MATH キャンプ」、「MATH ポスター」に数学科の全教員が参加していることは、課題研究の指導を含め、SSH 事業の推進にとって貴重な機会となっている。
・今後も、各教科の教師が全校体制で関わっていくことが期待される。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・県内の大学と SSH 指定前から連携をしており、今後も交流を深めていくことが期待される。高大接続の取組の検討なども今後期待したい。
・本校主催の「MATH キャンプ」、「MATH ポスター」では、数学・情報・統計に関して探究する県内外の高校生・中学生及びその指導者を集め、生徒・教師間のディスカッション、生徒の探究の進展・意欲の向上、指導者の意欲・指導力の向上を意図して実施している。

⑤　成果の普及等に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・ホームページを活用した情報発信の強化を含め、Ⅱ期目であることも踏まえ、積極的に成果を普及していくことが望まれる。
・「スーパーサイエンスハイスクール探究報告集」等を作成しており、視察受入れ時や「MATH キャンプ」、「高校生と算額をつくろう」の際にも、冊子を用いた普及活動として本校の活動の説明に利用している。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・SSH 事業に大きな関心をもち、前向きな意欲、企画力、研究指導力を有する理科・数学等の教師を配置し、円滑な事業展開と組織作りを支援している。
・常勤講師の加配や理系学部出身の ALT の配置を実施している。
・県内の大学と連携した「未来の科学者育成プロジェクト事業」の実施など、教師の探究に係る指導力向上等に向けた様々な取組がなされており、評価できる。
・管理下の各 SSH 指定校がそれぞれの特徴・良さを発揮できるような支援や広報も一層期待したい。今後も県内の SSH 指定校での人材育成を続けていただきたい。

栃木県立大田原高等学校（管理機関：栃木県教育委員会）【Ⅰ期３年目】の中間評価結果について

１　中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

２　中間評価における主な講評

①　研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・第Ⅰ期の学校であるが、先進校視察を踏まえつつ、自校に適した取組を数多く揃え、計画を着実に進めることができており、評価できる。校務分掌に「SSH 部」を新設し、「総務」等の各係を設置するなど管理体制は、しっかりしている。

・課題研究の指導を視点にしたアンケートから教師の意識変容を分析するなど、SSH 事業の成果と課題を確認している。特に指導する教師の意識の向上が見られる。

・探究活動に資する資質・能力アンケートでは、理数系に興味を持ち、探究意欲のある生徒の増加がみられる。

・生徒の委員会として「情報・SSH 委員会」を設置し、課題研究発表会の運営や動画の配信を行うとともに、ICT の活用を進めるなど、効果を上げている。こうした取組の効果などを引き続き検証してほしい。

・運営指導委員自身が関わりすぎて中立的な立場で指導できなくなることはないか。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・課題研究に社会啓発プログラムを設定して、第１学年から取り組ませていることは、評価できる。テーマ設定や活動内容について、生徒の主体的な活動を更に引き出すことができるよう、改善に取り組むことが期待される。

・課題研究は、第１学年のうちに課題設定をするなど３年間の流れで実施している。各学年１単位だが、生徒の自主的活動に依存してよいのか、増単位を含めて、検討を重ねてほしい。

・数学Ⅲ等の増単位等、理数系の教育課程上の取組を強化している。

・大学の研究施設見学や各種の科学系コンテストへの参加等の意図的な指導もあり、全校生徒対象の課題研究の中で理数系テーマが３年間で増加している。

・SSH 先進校で学んだ「標準ルーブリック」を基にした「科学探究に関する標準ルーブリック」を開発し、課題研究の指導に役立てている。

③指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・課題研究は、理数系以外の教科等の教師も含め各学年 20 名以上が携わり、２～３グループを１名の教師が指導するというきめ細かな指導体制で指導している。

・TA 等の外部人材についても期待したい。

・課題研究の指導及び評価に関する先進校視察を重ね、SSH 事業を全校体制で実施する原動力の一つとしている。

④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・審査会で大学生を活用する試みや、サイエンス特別講座の内容は、評価できる。

・「SS 探究Ⅰ・Ⅱ」における外部機関との連携として、県の関係機関や、大学等と具体的なテーマに沿った事業を展開している。

・科学系の部活動についても、全生徒の１割を超える参加となっており、評価できる。各種科学系コンテスト等にも積極的に挑戦している。

⑤　成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・課題研究の指導マニュアルは、新任教師への継承も踏まえて工夫された内容であり、全校体制での３年間の課題研究の指導を行う上で有効な手引書となっている。

・３人一組の指導体制をつくって教師がお互いに補完し合っている体制は、事業の継続的な発展の視点からも評価できる。新たに課題研究を指導する教師と SSH 部の教師のペアでの指導等を含め、こうした取組の成果の可視化も検討することが期待される。

・教育研究大会等で、本校の教諭や養護教諭が積極的に事例発表を行なっている。

・特色ある教材について、県内他校などとの共有を進めていくことが期待される。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・SSH の成果を基に、県主催の研修会などで探究に関する教師の指導力を向上するための取組を行っており、評価できる。

・教員の加配を行い、担当教員の負担軽減を図っている。

・第１学年全員分のタブレットや学習支援ソフトを整備し、大田原高校の ICT 活用能力プログラムの開発環境を支援している。

・大田原高校への特色を踏まえた特段の支援や広報についても検討してほしい。

群馬県立前橋高等学校（管理機関：群馬県教育委員会）【Ⅰ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2　中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・探究部の推進会議を週時程に位置づけ、担当教師の負担軽減につなげている。校長のリーダーシップのもと SSH 事業の推進のための管理体制を構築している。

・育成すべき生徒像を見据え、イノベーター育成の観点から ICE ルーブリック、外部検定、アンケートなど具体的な評価、調査を実施し、分析を良く行っている。

・理数系大学進学者の減少の理由は何か、その要因を分析することが望まれる。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・SDGs というテーマは、身近で社会的な問題ではあるが、理数系のテーマが弱くならないように留意することが望まれる。

・先輩との交流、学年間交流などの工夫がなされている。

・評価は、ICE ルーブリック、課題研究ルーブリック、英語パフォーマンステスト、ポートフォリオ評価、外部検定等により、多角的に行っている。

・ICE ルーブリックについて、学年で説明され、共通化されても、どう利用し、探究活動を高めるかは個々の教師に任すだけになっていないか、吟味することが求められる。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・令和２年度において、理系生徒が履修する「科学探究Ⅰ・Ⅰ類」では、ゼミ形式とし、ゼミ担当者（専門教科以外）をファシリテーターとして位置づけ、実質的な指導は大学などの外部指導員を想定していたとのことだが、生徒の自発的な課題研究として適切な指導を構築することが望まれる。

・自己評価票の取組事例が特定の教科に偏っているように見受けられる。本事業に教師全体がどう取り組んでいるかについて、検証が十分されていないのではないか。

・専門の科目と異なる内容のゼミ担当にすることによる教師力向上の効果についても一層分析してほしい。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・科学部の活動は活発であり、各コンテストなどでも生徒が活躍している。
・新型コロナウイルス禍の中でも、積極的に他の SSH 指定校との交流をしている。
・他校との交流で自分たちの欠けている視点やその改善について検討している。
・「前橋の地方創生」を大テーマにして「科学探究Ⅰ・Ⅱ類」で研究を行うなど、地方と連携した取組が進んでいる。

⑤　成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・教師間の情報共有として、職員会議で成果を共有したり、共有ドライブに指導案を保存したりしている。ただし、一方的な伝達や保存だけになっていないか、情報が活用されているか､検証が望まれる。
・様々な企業・団体と連携し、研究授業や開発した教材の公開、オンラインセミナーでの事例紹介等を行っている。また、「SSH 通信」は、本校 WEB ページで閲覧することができ、県内高等学校、そして近隣の小・中学校にメールで配布しているなど、情報発信に努めている。今後、成果を更に発信することが期待される。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・教員、事務職員各１名の加配や海外の理数系大学出身の ALT の配置、SSH に意欲的な教師の公募などの人的支援及び生徒全員に PC を貸与するなどの物的支援を行っている。
・県小学校中学校高等学校理科教育研究会と共催して県理科研究発表会を実施するなどして、SSH 指定校の課題研究を他校の高校生や小学生、中学生に発表する機会を設けている。
・本校の特色を踏まえた特段の支援や広報についても検討してほしい。

埼玉県立熊谷西高等学校（管理機関：埼玉県教育委員会）【Ⅱ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2　中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・これまでの SSH 事業の実施の経験をよく踏まえ、生徒中心で、独自性もある事業が進行している。計画・実施とも、組織的に行われていると認められる。

・国公立大学の理系の進学者数が増加するなど、大学進学の実績にも、SSH の取組が反映されている。

・運営指導委員からの助言に対して検討を深め、事業に具体的にフィードバックする内容を決める形で助言を生かすような検討も望まれる。

・「2 年全体で理科・数学に対して効果がなかったが多いのは問題がある。どのような分析や方策を考えていくかが課題となる。」という運営指導委員の指摘に対して、議論を積み重ね、どのような方向性が必要かを見いだして、一つ一つの取組を有機的につなげて生徒の資質・能力の育成を図ることが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・課題研究を中心に、生徒が疑問を持ったり発信したりするなかで力をつける教育内容が実施されている。今後、課題研究ではテーマ決めを中心に生徒の主体性が更に発揮され、それが通常の授業の中でも生かされるように取り組むことが望まれる。

・多くの教科・科目において、探究的な学びや、主体的・対話的で深い学びを意識した実践が見られることは、評価できる。ただし、それらが体系的・総合的に目指すものが判然としないところも見受けられる。

・「AL5Five」、「LO5Five」の成果も期待されるので、継続した研究開発による成果の分析・評価が望まれる。

・「SS 生物」、「SS 化学」、「SS 物理」において多くの実験が実施され、課題研究につなげていることは、評価できる。「SS 数学Ⅰ・Ⅱ」と課題研究のつながりをもう少し明確にして課題研究につなげていくことが期待される。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・組織的な指導体制が組まれ、成果を上げている。今後、更に生徒の活動や取組の自由度を増やす方向での指導体制の改善が期待される。

・理数科における課題研究の指導のノウハウを普通科の課題研究の指導にどう生かしていくのか、学校全体の合意形成を図っていくことが望まれる。

・理数科で外部人材の活用が多く行われており、普通科でも外部人材の活用を検討していることは、事業推進に良い効果をもたらすと期待される。

・授業改善委員会がリーダーシップをとり、普段の授業と課題研究をつなげて、課題研究の質を高めるようにしていくことが期待される。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・望む生徒に対して課題研究の一部を大学や企業と連携して進められるような体制の構築も望まれる。

・理数系の部活動への参加人数が増えるような支援策の検討も望まれる。生徒に積極的に様々な活動の機会をつくることは重要である。

・自然科学部の活動を質・量ともに更に充実させ、自然科学部の課題研究における取組が学校全体の課題研究の質の高まりに寄与するようなシステムを構築することが期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・今まで培った様々な成果やノウハウを広く発信して他校のフィードバックを受け、更に改善していくことが期待される。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・SSH 指定校への教員の加配や、高校生対象の理数系のイベントなども評価できる。

・SSH 指定校連絡協議会を実施していることの意義は大きい。今後も SSH 指定校間の取組の情報交換を促し、本校の研究成果をより一層発信することが期待される。

・理数教育への一層の働きかけを期待したい。それには SSH 指定校としての本校の位置付けを県の教育政策全体の中でも考えることが望まれる。

・SSH 指定校における課題研究のノウハウや成果を SSH 指定校以外に広げる様々な手立てを考案して、「理数探究基礎」や「理数探究」の開設につなげていくことが期待される。

千葉県立船橋高等学校（管理機関：千葉県教育委員会）【Ⅲ期３年目】の中間評価結果について

※高大接続枠に関するものを含む。

1　中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2　中間評価における主な講評

①　研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・統括部、探究指導研究会に理数以外の教師や実習助手を加え、より広く事業が浸透させようとしている。
・校長との目標申告面談でも、教師の SSH への意識づけを行っており、評価できる。
・事業の効率化、生徒の変容に係る評価方法の開発という課題の改善によって成果がどうなるのかも引き続き検証し、公開することが望まれる。
・アンケートや進学実績以外の生徒の伸長を評価する手段の開発も期待したい。
・SSH コンソーシアム千葉の幹事校でもあり、教師の業務が大きくなっていると思われるので、いかに効率化を図り一人一人の負担を軽減するかが課題である。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・課題研究のテーマ設定で、生徒が自分事として捉えていることは、評価できる。
・課題研究と普段の授業が関連していることを意識することは、評価できる。
・課題研究について、第３学年での取組が弱く、選択者がいないことは、課題である。また、各 SS 科目に関して、指導方法や科目間の連携等の工夫が期待される。
・普通科においても、物・化・生・地の４つの基礎科目すべてを履修することとし、授業中の探究活動の時間を確保して、理数系教育に重点をおいた教育課程を編成している。
・Ⅲ期目の取組として、多面的な評価法の開発が期待される。
・通常の教科の授業で「単元の最初に授業テーマを身近なことに関連付けて問いを立てることからスタート」するという展開も評価できる。結果として課題研究などのテーマを比較的スムーズに設定できているということも納得できる。
・「課題研究指導の事例集」、「普通科探究活動事例集」の２種類の事例集は、有用なものと考えられ、評価できる。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・普通科第１学年の「テーマ探究」は、指導する生徒数に対し、現在の担当教員数では細やかな指導を行う上で負担が過大になっていないか。
・「探究指導研究会」を設けて、メンバーを考慮して入れ替えながら取り組んでおり、多くの教師が参画することで、各教科間の連携・授業改善につながっている。
・「探究指導研究会」で開発した教材等を用いて、校内研修を行っている。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】
・高大接続枠の取組は、担当者の負担が大きいと思われるが、大学との連携を密にとりながら参画校を牽引して、幹事校として高大接続ロールモデルとなるよう推進、発展させることが期待される。
・高大接続枠について、生徒の主体的な取組を踏まえ、各校の独自性を尊重しつつ共通化を図ること、入試にかかわらず生徒の意識を積極化させること、幹事校・参画校の生徒選抜等の課題に対する工夫や成果を明らかにすることが望まれる。千葉大学への入学後の追跡調査を行い、知見を得るような計画も期待したい。
・本校を幹事校として、小中高大の全県的な理数教育ネットワークシステムを継続しており、千葉県全体の理数教育推進の基幹校としての役割を果たしている。
・地元の小中学生向けのイベントは、高校生の科学に対する理解を深め、同時に地元の科学好きを増やす有用な取組である。こうした地域と連携した取組は、新型コロナウィルスの影響の改善状況に応じて再開することが望まれる。
・「千葉サイエンススクールネット　指導研究会」について、どのようなことに注意して立ち上げ、運営するかなどの発信・広報が期待される。

⑤　成果の普及等に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】
・学校ホームページ上に、SSH 専用ページを用意し、SSH の各取組内容やスケジュール、教材、課題研究データベース等を公開している。過去５年間の課題研究をデータベース化し、閲覧できるようにしており、評価できる。
・作成した「課題研究指導の事例集」を高校・大学等に配布し、千葉県内の理数系教育を牽引する高等学校として、研究開発の成果を普及させている。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・力のある管理職を配置し、理数教員の加配、理科実習助手の人材配置に加え、教師の公募制により理数系教育に対して高い意欲と優れた指導力を有する教師を広く県内から募り、SSH を推進するための人的支援を行っている。
・本校の特色を踏まえた特段の支援や広報に配慮することも期待される。
・高大接続枠の幹事校であり、教師の負担軽減については、学校としての工夫もさることながら管理機関の一層のバックアップも期待される。

千葉県立佐倉高等学校（管理機関：千葉県教育委員会）【Ⅱ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2　中間評価における主な講評

①　研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・SSH 事業の推進管理体制としては前期の指定の経験もあり、より現実的なものに改善されている。探究学習部が小さくない影響を与えているように感じる。
・「事業評価デザインの開発」とその効果の公開が望まれる。
・生徒の変容や卒業生の活躍状況に関するデータの取り上げ方は、都合のよいデータだけを拾っていると思われないよう、改善が求められる。教師の意識の変容を考えると生徒についても肯定的な変容は、実際にみられると考える。
・普通科は、理系生徒が毎年 50%未満だが、課題がないか、吟味が求められる。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・理数科での課題研究は、十分な時間がとれるよう、充実が期待される。また、普通科の課題研究における理系の扱いにも工夫が望まれる。指導において課題がないか、もしあれば、どのような対応をしているか。論文作成は、評価できる。
・SS を付した理数の科目については、SSH として特色ある工夫が望まれる。「佐倉サイエンス」との連携等を考えることも望まれる。
・第１学年における普通科と理数科の共通プログラムの内容と方法の有効性と成果と課題を踏まえた改善についても引き続き検討することが期待される。
・生徒の行き詰まりの事象への対応の工夫を整理し、カテゴリー化してはどうか。
・研究ノートのルーブリックによる生徒の自己評価、教師による評価法を開発して、探究力育成を検証している。多面的な評価方法の導入の検討も期待される。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・外部人材の活用については、学校としての指導の主体性をどう担保していくのか。
・普通科の課題研究の指導体制も担当者が不安感を抱かないよう工夫されている。
・教師の指導力向上のための研修については、働き方改革の視点も入れつつ見直すこ

とが望まれる。例えば、6 月と 11 月の 2 度の校内授業研修期間では、いずれかだけでも研究協議を取り入れてはどうか。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・新型コロナウイルスの感染拡大の影響下にありながら、大学連携講座、企業連携講座の実施、博物館オンライン講座が実施されていたことは、評価できる。ただし、取組が単発的であり、他の高等学校の参考になり得る取組が望まれる。
・遠方の SSH 指定校やその他の科学教育の先進校との連携について、国内外での情報交換、共同研究、研修などへの ICT の活用も期待したい。
・佐倉市と協力して行っている取組は、評価できる。

⑤　成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・これまでの指導方法等を蓄積して自由に閲覧できるようにしている。また、課題研究について指導経験のある教師と新たに赴任した教師を組み合わせて指導に当たるようにするなど指導体制も工夫されている。
・教師については、管理体制・指導体制・教員研修の点から共有・継承について振り返り、一層効果のあるやり方を検討することが望まれる。
・中学校からの教員研修の受入れは、近隣の中学校の意識の醸成、探究的な学びの充実に貢献すると思われ、積極的に取り組むことが期待される。教員研修や交流が定期的で、恒常的なものであれば、その効果と公開も期待したい。
・「理数探究」に係るガイドブックの開発に関わり、ホームページに公開して成果の普及に努めている。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・指導体制の充実のため、理数科への教師の加配、指導力のある教師の配置、公募制度による意欲のある教師が着任できる施策を行い、人的な配置の支援を行っている。
・「ちばっ子学力向上プラン」に SSH 指定校の取組を位置づけ、県内各校に積極的に発信している。ただ、県の理数教育の強化という観点で一層の施策が期待される。
・本校の特色を踏まえた特段の支援と広報に配慮することも期待される。
・教育センターの小・中体験研修は、小・中学生の理科教育に貢献すると思われ、積極的に実施されたいが、高校生への特別な支援の積極的な企画も期待される。
・研究成果の発信もより積極的に行うことができるのではないか。

学校法人市川学園　市川高等学校・市川中学校（管理機関：学校法人市川学園）
【Ⅲ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2　中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・理系を選択する生徒数が増加するなどしており、評価できる。
・「SSH 部」を中心としつつ、教員組織による計画・管理が各部署ごとに設定され、一定の動きがなされていると認められる。ただし、全教員に対する情報共有の点では、改善が望まれる。
・卒業生に対するデータ収集については、今後の改善が望まれる。
・運営指導委員会からの指導によって、効果的な取組になりつつある。特に、評価規準の明確化と生徒への提示、フィードバックなどに改善が見られる。

② 教育内容等に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・理数を重視したカリキュラム編成をしており、また、文系の生徒を含め、理科の科目の履修状況に改善が図られている。中学校で育成された資質・能力を高等学校段階でどうステップアップさせるのか、一層充実した育成を期待したい。
・課題研究に当たって、文献調査に時間をかけることや、研究倫理について高校生に意識化させることは、評価できる。Ⅲ期目であることを踏まえ、第２学年理系のみでなく、課題研究により広く取り組むことが望まれる。
・「市川サイエンス課題研究評価基準表」は、作成過程で多くの教職員が関わり共通理解をもっており、内容を含め、評価できる。ただし、課題発見や課題解決の過程等の段階における指導と評価の一体化を図った取組を充実させることが望まれる。
・学校設定科目の「構造読解」など、国語や英語、地理などで特色ある教育内容を取り入れている。
・探究的な学習活動に関して、工夫が見られるが、カリキュラム・マネジメントの視点からの教科等横断的な学習指導については、年間指導計画の作成等を通して構造化・可視化を図ることが望まれる。
・特色ある教材の開発は、高等学校としての教材や探究に関わるものの今後の展開が望まれる。運営指導委員会の「生命倫理規定策定」の指摘の実践は、評価できる。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・Ⅲ期目であるものの、全校的な指導体制が構築できているか。探究科目における指導体制について、指導の工夫や、外部人材の活用などについても明らかにすることが求められる。

・年間を通して授業公開を行う「オープンクラス」を実施していることは、評価できる。PDCA の視点から、「オープンクラス」の実施が教師の指導力向上にどのような成果が得られているのかを明確にすることが期待される。

・課題研究の指導に関する教員研修が計画的・系統的に実施されているか。整理して示すことが望まれる。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・理数系の部活動の部員が多く盛んであり、科学オリンピック等での多くの受賞につながっていることは、評価できる。中学校段階での成果が高等学校段階での活躍にどうつながっているかを明らかにすることが期待される。

・タイやドイツの学校を訪問して研修や研究発表を実施するなど国際性を高める取組は、評価できる。外国語の日常的な授業との連携を充実させることも期待したい。

⑤　成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・年度末のほか、取組の都度に成果を共有するシステムになっているのか。発表会や年度末に加えて、研究開発の成果の共有や継承を行う場面の充実が望まれる。

・ホームページにおける SSH 関連記事の掲載は、評価できる。今後、より積極的な発信が望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・SSH のための専任の事務職員の配置や別枠の SSH 予算を含め、人的支援や経費支援をしっかり実施しており、評価できる。

東京学芸大学附属国際中等教育学校（管理機関：国立大学法人東京学芸大学）
【Ⅱ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2　中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・全体的に、PDCA サイクルにしたがって、成果を上げている。
・学校経営に SSH をしっかりと位置付けており、全体としては、研究体制がしっかりしていると評価できる。ただし、特に SSH として見た場合、課題もあるように思われる。
・３年目の事業推進の内容についても２年目までの成果の分析を踏まえたものとなっており、成果が期待される。ただし、運営指導委員会での指導やコメントの内容、それらを踏まえた改善点を十分に明らかにすることが求められる。
・ATL の定量的効果検証は生徒の自己評価のようだが、その妥当性をどう担保するのか、また、教師の評価とのずれをどう考えるのか、明らかにすることが望まれる。また、なぜ ISS チャレンジに参加した生徒だけを対象にするのか、全校生徒を対象に資質・能力が伸長したかを検証する仕組みが望まれる。
・理系進学の卒業生が他の SSH 指定校に比べてかなり少ないが、この現状をどう考えているのか、SSH としてどう進めていくのか、今後よく議論することが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・DP 選択生を除いて、すべての生徒が理科の物理・化学・生物・地学４科目についての基礎科目を履修できるようにしており、評価できる。ただし、より深く学ぶことができるカリキュラムを期待したい。
・IB の手法を活用して、探究的な学びを実現する授業設計を行っており、評価できる。ただし、IB の手法や概念に対し、より発展できた部分がどこにあるのかがわかりにくく、IB と SSH の関係を整理することが求められる。
・「数学オリジナルテキスト」、「TGUISS 実験デザイン集」等、特色ある教材開発が進められており、評価できる。継続した教材のメンテナンスと改善が期待される。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・全校体制で取り組み、指導組織がきちんとできており、有機的に連携している。

・社会との関連やSOCIAL CHANGEといった標語に囚われすぎてすべてが社会に役立っていないといけないというような姿勢になっていないか、生徒の自由な探究心を阻害していないか、科学技術人材の育成という視点で吟味することが求められる。

・研究グループ制度によって、優れた授業実践を共有し、議論することができているならば、評価できる。

・月に１回、校内研究会を設けて、研究開発に取り組んでいる。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・外部連携、国際性に関する取組は、共に実施されているが、SSH としての独自の取組としてより発展させることが望まれる。

・選択科目としてサイエンスイマージョン科目を設置しており、生徒と教師の共同執筆論文や共同発表も特色があり、生徒の探究活動の深化も考えられ、評価できる。

・大学や研究機関等との様々な連携が新型コロナウイルスによって不調になってしまったことは残念であるが、オンラインを用いるなどして、それらの機関の研究者等とコミュニケーションを取るような企画を実施することが望まれる。

⑤　成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・他の学校に対して汎用性の高い教材を開発しようとしており、評価できる。

・研究開発の成果を、一部ではあるが本校のホームページ上で公開したり、研究会などで配布したりするなどしているが、更なる充実が望まれる。

・教師間の共有・継承をどのようにしているのか、明らかにすることが求められる。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・SSIB 講座で開発された実験講座を一般の高等学校でも広く活用できるよう公開する計画も推進が望まれる。この場合、オリジナリティや著作権に関する問題が課題になりうるが、解決に向けた検討・提案が望まれる。

・管理機関が生徒に MRI 等の先端機器を学ぶ機会を設けていることは、評価できる。

・オンライン発表会の Web プラットホームを構築したことは、評価できる。本校の教材やノウハウを、他校でも実践できるような企画が望まれる。

お茶の水女子大学附属高等学校（管理機関：国立大学法人お茶の水女子大学）
【Ⅰ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2　中間評価における主な講評

①　研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・附属学校の強みを生かして、管理機関と密に連携した SSH 推進体制がとられ、また全教科の教師が関わって順調に活動している。教科・科目の連携の重要さを教師が意識して、更にカリキュラム・マネジメントに生かすことが期待される。

・生徒の変容も探究力の向上という点では認められるが、理数系への意欲の向上が十分に認められるとは言い難い。SSH の趣旨を十分に把握して、理数系教育に特に力を入れることが望まれる。

・生徒の意識調査や自己評価に重点が置かれており、評価の客観性、信頼性が課題である。科学的探究の 20 の項目について、明確な判断基準で評価できるシステムの開発が望まれる。

・運営指導委員会の内容や挙がった課題を教師全員に共有していることは、評価できる。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・第２学年の「課題研究Ⅰ」では特に生徒の研究時間の確保に努めている。

・探究力の育成や課題発見力の向上については、しっかりとした教育内容となっている。ただし、理数系の探究力や課題発見力への生徒の意識を向上させるような教育内容となるよう、よく検討することが望まれる。

・レーダーチャートの発想は、良いと思うが、具体的にどう指導を進めていくのか、その基準となるものを示すことが望まれる。

・面談用ルーブリックの開発は、評価できる。ただし、教師や生徒が評価に関わる時間等が過度に長くならないように留意することも望まれる。

・「課題研究Ⅱ」の選択者が少なすぎるのではないか。生徒が主体的に「課題研究Ⅱ」を選択するようなカリキュラムや学習内容の見直しが望まれる。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・様々なところで指導体制が工夫されている。理数系への生徒の意欲や取組を、SSH 事業を通して増大させていくような指導体制を期待したい。

・「課題研究Ⅰ」では、全校生徒を対象にした指導体制が整えられている。また、個人研究にもグループ研究のどちらにも対応している。

・卒業生や大学生・大学院生などを自校の人的資源として上手く活用している。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・お茶の水女子大学との高大接続のプログラムが積極的に行われている点が評価できる。高大連携特別選抜を大学が実施しており、高大接続のモデルの一つになると考えられる。

・課題研究や特色のある科目などで、適切かつ効果的な大学との連携を行っている。今後は海外とのオンラインによる新たな連携方法の開発も期待したい。

・台湾の提携校との事業を発展的に続けるなど、SGH の成果を上手く、SSH に取り込んでいる。

⑤　成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・報告書や開発した教材などをホームページによく公開している。

・中学生や高校生の中でも女子生徒に成果をアピールし、女性科学者などの育成のリーダーシップをとることも期待したい。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・附属学校の長所を生かした取組がうかがえる。

・アドバイザリーボードや高大連携担当教員の配置など、大学側の協力がかなり大きいと感じる。

東京都立戸山高等学校（管理機関：東京都教育委員会）【Ⅳ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2　中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・学校長のリーダーシップの下、全校体制への意識が高まっていると考えられる。今期の事業実施中に管理体制・指導体制が大幅に改善され、一部の教師や生徒の力に頼らない事業実施が進められている。

・これまでの問題点をよく把握し、その改善が着実に実行されていると認められる。

・SSH クラスにおける様々なノウハウをその他のクラスに広げ全校体制をどのように構築していくのか、その道筋を明確にすることが望まれる。

・理系学部への女子進学率が全女子生徒の大学進学者の半数程度に達する成果につながった活動実績も評価できる。

・生徒間のリフレクションを活用・支援する仕組みも評価される。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・課題研究と普通教科との連携についてもよく考慮された活動となっており、授業改善に向けた活動も評価できる。ただし、理数系へ目を向けさせる内容にまだ弱いところがあるように思われるので、その点での改善が望まれる。

・ルーブリックなど評価についての基本的な整理が求められる。

・「SSⅢ」や「知の探究Ⅲ」の希望者を増加させていく取組を推進することが期待される。３年間を通して生徒の資質・能力の育成を図るカリキュラムの構築をどのようにしていくのか､学校全体で議論しながら方向性を定めていくことが期待される。

・生徒が習得すべき「ミニマムスキル」を学べる教材や「動物実験ガイドライン」の教材開発なども評価できる。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・本校の指導体制によって、生徒が主体的に取り組んでいると思うので、評価できる。

・課題研究を教師とともに支援するメンター制度も評価できる。SSH クラスに入らなかった生徒でも研究希望があればSSHアソシエイトとして授業外の活動に参加できるようにする仕組みも評価できる。
・第１学年の「SSⅠ」と第２学年の「SSⅡ」を同時に開講し、異学年の生徒や異分野で研究している研究者・生徒と交流しながら取り組む課題研究は、切磋琢磨する場として成果が期待される。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】
・本校主催の生徒研究成果合同発表会は、参加者も多く、教師にとっても大きな学びの場をなっている。
・理系の女子生徒の育成の場として「理系女子交流会」も大きな役割を果たしており、評価できる。

⑤　成果の普及等に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】
・Ⅳ期目の SSH 指定校として、これまでの知見をまとめて、一般の学校の授業改善のノウハウとして公開することが望まれる。
・他校や他地域の SSH 指定校とも取組の情報交換を積極的に行い、本校の成果を一層発信することが期待される。成果の普及として他校が「理数探究基礎」や「理数探究」を開設する手助けとなるような取組も期待される。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・本校も都の教育政策の中でしっかりと位置付け、都全体の理数教育への一層の働きかけを期待したい。
・都独自に理数教育重点校を指定するなど「理数探究基礎」や「理数探究」の開設に向けて学校を支援する取組は、評価できる。指定校以外に対し、顔の見える、SSH の成果を共有・普及する具体的な支援も期待される。

神奈川県立相模原高等学校（管理機関：神奈川県教育委員会）【Ⅰ期３年目】の中間評価結果について

１　中間評価の結果

このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される。

２　中間評価における主な講評

①　研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

・事業分析は、理数系人材の育成に関する具体的な観点から行うことが望まれる。
・当初計画していた事業内容を実施するための努力は、確認できる。
・SSH 事業の推進・管理を１・２年目は「SSH 推進プロジェクトチーム」が担っていたところ、３年目はそれを解消し新たに「学習グループ」が担当することになったが、情報共有の改善として具体的にどのように組織的な改善をしたのか、その結果、具体的にどのように成果を上げたのか、明らかにすることが望まれる。
・生徒や教師の意識調査から変容を分析しているが、対処されていないようである。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

・高等学校としての主体的な理数系人材の育成という視点をしっかりと持った取組が望まれる。「SS 課題探究」は、テーマから見る限り、理数教育の強化の観点が弱い取組になっている。調べ学習に留まっていると強く感じる点も改善が求められる。
・課題研究については、３年間を通して科目を設定している点は、評価できる。ただし、第３学年は自由選択かつ集中講座で選択者も少ない点は、改善が求められる。
・「SS 課題探究Ⅰ・Ⅱ」について、生徒が主体となる理数系テーマへのアプローチが認められなかった点は、改善が求められる。
・すべての教科・科目で主体的・協働的な学習に取り組み、科学的な探究力及び国際性を育成することを研究開発の目標の一つに挙げ、授業改善に積極的に取り組み、検証して成果を上げようとしている。
・教育課程上、理科については全生徒が第１学年で基礎科目を３つ履修している点、第２学年の課題研究のテーマ設定を第１学年後半から行っている点は、評価できる。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

・高等学校としての主体的な理数系人材の育成という視点をしっかりと持った取組が望まれる。

・第１・２学年の全生徒の課題研究を指導することから教師の情報交換や研修の必要性を実感して、研修会を実施している。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

・大学との連携による TA 制度や合同研究発表会等について、理数系の質の高い課題研究の指導方法、評価方法に生かされる取組が期待される。

・「高大接続プログラムの研究開発」が課題名である。高大連携から高大接続の取組の検討への拡大も望まれる。

・米国研修、オーストラリア短期留学については、新型コロナウイルス禍での代替となる試みが望まれる。また、インターナショナルクラブを立ち上げ、留学生と交流するなどしているが、限られた人数であることも課題だと考えられる。

⑤　成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・各事業の成果の共有は職員会議のみなのか。職員会議での共有等をしているが、今後、教師の負担感にならないような精査もしつつ、改善が望まれる。

・課題研究について、「指導用ガイド」を作成し、担当者会議を行っている点は、評価できる。

・ホームページの資料は、充実している。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・定数加配を通じた人的支援を実施している。また、無線 LAN 環境やタブレット端末の整備等の支援も行っている。

・SSH 担当に理数や外国語の指導主事、事務系職員を配置して体制を整えている。

・外国との交流における特色を持つ神奈川県としての特色ある理数系人材の育成にあたっての施策も期待したい。

・本校への特有の支援やその成果の広報にも配慮することが期待される。

神奈川県立多摩高等学校（管理機関：神奈川県教育委員会）【Ⅰ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2　中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・２年目には、各分掌のリーダーを加えた「拡大 SSH 推進会議」を設置し、協議・調整を経る運営体制を整え、より全校体制で推進している。

・生徒、教師への調査から成果と課題を抽出し、重点的に取り組むべき課題を見いだし、改善を試みている。「事業評価方法の開発」には期待したい。

・生徒に理数のイメージを高め、理数選択者の増加につながったことは、評価できる。

・運営指導委員にも学校としての人材育成の観点をしっかり伝えることが求められる。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・SDGs を用いた教科横断的な学習が行う SDGs Days の実践から通常の教科・科目に広くつなげていくことが期待される。

・３年間を通して課題研究に係る科目を設定しており、10 分野にわたる生徒主体の課題研究を行い、それらを深化させている点は、評価できる。

・自然科学系分野の課題研究についても意図的な指導を行っている。今後、高度な理数系の課題研究の指導に関するより具体的な成果が望まれる。

・発表での質疑応答が十分行われていないことに対して、一層の工夫が求められる。

・プログラミング的な学習活動を理系以外の教科でも実施しており、評価できる。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・学校設定教科「Meraki」では、担任・副担任、情報・理科の教師をはじめ、理数の教師以外を含めた多くの教師が指導にあたっている。

・理数教育に主眼を置く SSH 事業を踏まえ、外部講師による講演や講義も活用して、理数系の探究能力、科学的リテラシーを育み、その中から更に能力のある生徒を伸

ばそうとしており、評価できる。
・今後 TA やメンターの活用が多くなっていくと思われるが、外部人材任せにせず学校として課題研究におけるそれらの役割をはっきりさせていくことが必要と思われる。支援のあり方、効果について引き続き検討することが望まれる。
・外部講師による教員研修の実施、先進校視察、公開授業による指導主事を交えた協議などを行い、教師の指導力向上を図っている点は、評価できる。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・国際性については、Tama International Club によるディベート活動、韓国の高等学校との共同研究等を行っている点は、評価できる。ただし、それらの活動が単発的に見える点は改善が求められる。また、成果やその効果の分析も期待される。
・部活動に加えて、SSH 研究室（「メラーキラボ」）を活用した科学コンテストを支援する体制（「メラーボプロジェクト」）により、物理チャレンジ、数学オリンピックなどへの挑戦等で成果があらわれていることは、評価できる。今後、SSH 研究室の活用などにより高度な理数系の課題研究の指導に関する成果が期待される。

⑤　成果の普及等に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・成果の普及に関しては、ホームページの活用や月 1 回の SSH 通信「情熱メラーキ」の発行などを中心として実施している。今後の更なる普及活動に期待したい。
・成果の継承も計画的に実施することが望まれる。
・公開授業等を実施し、県内外の高等学校からの参加を受け入れている。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・定数加配を通じた人的支援を実施している。また、無線 LAN 環境やタブレット端末整備等の支援もあった。
・SSH 担当に理数系や外国語の指導主事、事務系職員を配置して体制を整えている。
・外国との交流における特色を持つ神奈川県としての特色ある理数人材の育成にあたっての施策も期待したい。
・本校への特有の支援やその成果の広報にも配慮することが期待される。

富山県立富山中部高等学校（管理機関：富山県教育委員会）【Ⅱ期３年目】の中間評価結果について

１　中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

２　中間評価における主な講評

①　研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】

・３年目で多くの活動の検証、中間まとめが行われており、今後の成果も期待できる。

・校長のリーダーシップの下、全校体制への意識や実践力が高まっていると考えられる。様々な仕掛けを踏まえて少しずつ全校体制に変容していったプロセスは、他校にも参考になると考えられる。

・Ⅰ期目の課題をⅡ期目に焦点化して取り組み、設定した研究開発課題を正面から捉え、その実現を着実に進める計画が実施され、生徒の主体的な変容が多く見られる。

・生徒の状況をよく踏まえて、生徒本意の事業実施となっている。理数科学科の探究活動全体のルーブリックを作成して現状を把握し問題点を見いだして対策を講じていることは、評価できる。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・理数科目だけでなく、それ以外の教科・科目においても、探究をベースにした指導法を生かしている。

・ルーブリックによる評価で、説明会などを通して生徒にも基準に合わせた到達目標を意識させていることは、探究力の伸長には有益と考えられる。ルーブリックを双方向に利用することで指導力の向上にも資すると考えられる。

・課題研究では、特にテーマ設定において探究科学科・普通科ともに、生徒の主体性が発揮されるように工夫された教育内容となっている。課題研究の質を高めるような手立てを普段の授業改善と結びつけて実践することが期待される。

・「探究ガイド」、「探究モジュール」、各種のワークシートの開発や教科横断的な教材開発が行われ、実際に使用されており、成果が期待される。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】
・普通科の「SS 探究」における教科横断の枠組みでの指導は、どのように対応しているか、明らかにして示すことが望まれる。
・教師が援助するところと、生徒の主体性に任せるところのバランスがよく考えられた指導体制となっている。
・課題研究のテーマ決めから発表まで更なる全校体制の構築に向けてどのようにしていくのか、全体で議論して方向性を見いだしていくことが期待される。
・先進校視察をどう全体に生かしていくのかも期待される。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】
・「三校合同課題研究発表会」の開催や県外の SSH の生徒研究発表会への参加、地域を対象とした「サイエンスアカデミー」の実施等は、評価できる。
・外部との連携や外部のコンテストへの応募等、「SS 部」を中心に生徒が積極的に取り組んでおり、それに対する教師の支援を含め、評価できる。

⑤　成果の普及等に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】
・他校や他地域の SSH 指定校とも取組の情報交換を積極的に行い、本校の成果を一層発信していくことが期待される。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】
・富山県の理数教育振興への一層の働きかけを期待したい。本校の位置付けを県の教育政策全体の中でも考えていくことが期待される。
・「とやま科学オリンピック」の継続的な開催は、県全体の理数系人材の育成に大きな役割を果たしていると思われる。今後、課題研究の成果やノウハウを他校の「理数探究基礎」や「理数探究」の設置に結びつけていくことが期待される。

福井県立藤島高等学校（管理機関：福井県教育委員会）【Ⅳ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2　中間評価における主な講評

①　研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・校長のリーダーシップがある。他の校務分掌から独立した企画研究部で SSH 全般のマネジメントを行うなどしつつ、教師の負担が増えすぎないように事業を精選しており、評価できる。

・成果の分析・評価も適切であり、卒業生への対応もしっかり行っている。

・運営指導委員会の協議内容から課題を整理し、取組の方向を明確にすること、特に、評価に関わる指摘については具体的な方策を指導していただくことが期待される。なお、運営指導委員会の指導のうち「継続研究の促進」は、生徒の課題設定力を弱め、主体的な興味・関心を低下させる恐れがあり、慎重に考えることが望まれる。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・普通科のみの学校として、理数系教育を重視した教育課程の編成や、SSH コースの設置、すべての生徒による学校設定教科「研究」の履修など課題研究を中心とした教育課程の編成に工夫が見られる。

・課題研究についても、研究のサイクルを繰り返すことで研究内容を深めている。

・学校設定教科「研究」の３年間を通した科目設定は効果的であり、評価できる。

・８校連絡会の成果を生かした「藤島型記述式ルーブリック」は、課題研究の学びを生徒の自己省察と教師のカンファレンスを通して見通す評価法として評価できる。

・課題研究等に関するテキストなど特色ある教材を作成しており、評価できる。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・ほぼすべての教師が課題研究の指導を経験しており、評価できる。

・課題研究の指導の充実を目的とした「教授質問会」や「藤島プラットフォーム」により、多様な生徒のテーマ設定とともに質の高い課題研究に対応できる指導体制が

可能になると期待でき、評価できる。
・職員会議後の「プチ研修」の設定など、教師の過度な負担にならない工夫も行いつつ、研修の体制を確立させている。
・課題研究のみならず、通常の授業についても改善が進められている。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】
・藤島プラットフォームは、将来の自走化への足がかりとなる。
・外部連携を推進し、生徒のニーズに沿った「先端企業講演会」、「サイエンスダイアログ」、「若狭湾エネルギー研究所研修」、「理工医セミナー」など多彩な企画を運営し、科学系トップ人材の育成を図っている。
・県内の大学との SSH 枠総合選抜型入試の実施に向けての高大接続の研究は具体化に期待したい。
・部活動が盛んである。国際教養部も、科学技術人材育成の観点からも興味深い取組である。
・科学系のコンテスト、具体的には物理オリンピックや化学オリンピック、科学の甲子園等に積極的に参加し、成果もあげており、評価できる。

⑤　成果の普及等に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】
・学校設定教科「研究」に関する資料はすべて公開するなど、多くの成果物をホームページに掲載し、複数の県内の高等学校で課題研究や評価の指導に活用するなど実績を上げている。実用性の確認等において、数量的評価を踏まえた実証・検証も期待したい。
・記録物等を使って、取組の成果をしっかり引き継いでいる。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】
・各学校を担当する学校担当指導主事の配置や、SSH 指定校への教員の加配や ALT の２名配置（理科に精通した者を優先）、無線 LAN、タブレット端末一人一台等の ICT 環境整備等、積極的に支援している。
・県の普通科系高等学校の半数への探究系学科の設置や県合同課題研究発表会の開催等により、SSH の成果を県の教育施策に反映させたり、県内の他校に普及させたりしている。

静岡県立浜松工業高等学校（管理機関：静岡県教育委員会）【Ⅱ期３年目】の中間評価結果について

１　中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

２　中間評価における主な講評

①　研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

・Ⅱ期目の特徴を出す点に重点を置いた分析・評価法の工夫が望まれる。

・Ⅱ期目の目玉である TED プログラムについて、利用している生徒が数名しかいないという状況は、改善が必要である。生徒の主体性が危惧される。

・研究開発課題名にある「鍛え抜かれた実践力と科学に基づく創造力」の育成のために、どのような生徒の変容を求めていて、教育内容を含め、どう進めるのかを改めて検討し直し、それに沿って事業を大きく改善することが求められる。

・工業高校ならではの SSH としての取組が何であるか、対外的に見てもわかりやすいように示すことが期待される。

・「課題研究の準備段階として、第１・２学年が学べる機会を用意する」、「学科の枠を超えた課題研究に取り組んでもらいたい」等の運営指導委員会からの指摘事項に学校全体でどう応えていくのか、方針を定め具体化していくことが望まれる。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

・RACE 学習ノートを開発して効率的に生徒と教師の情報交換に役立てフィードバックをかけようとしているねらいは、評価できる。維持管理を含め、これを具体的に活用する工夫が望まれる。

・３年間を見通して課題研究の質をどう高めていくのか、その道筋を明確にすることが求められる。

・生徒の主体的な活動は、評価できる。ただし、生徒に丸投げしているような状況は不十分であり、教師が主体的にカリキュラム・マネジメントを進めていくことが求められる。

・課題研究において、生徒の主体的で探究的な学習活動が行われているかどうか、「何度も反復して実践することによって鍛え上げた知識や技能」をどのように主体的な

探究力に昇華させているのか、明らかにすることが望まれる。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・教科の授業内容などが生徒にとってより有益かつ効果的なものになる指導体制の研究も望まれる。
・より広い視野をもった人材とするために横断的な学習や教師の連携に取り組もうとしていることは、成果が期待される。
・学習内容をホームページを通じて共有しクロスカリキュラムに取り組むことだけで十分な成果が上がるのか、検討が求められる。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・生徒自身が企画し、生徒が主体的に海外の交流先を開拓しようとする取組は、評価できる。
・海外との交流について、新型コロナウイルス禍においても、インターネットを利用し交流を進めるなど、取り組んでおり、評価できる。交流結果について事後に教師がケアを行い、更なる向上につなげることが期待される。
・海外との交流について、課題研究を通して日常的に交流を図るなどの工夫が求められる。また、例えば、海外の技術系コンテストへの参加などを導入点として生徒の興味を引き出すような取組を行ってはどうか、検討が期待される。

⑤　成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・開発したものやノウハウをしっかりとホームページで公表することが求められる。
・クロスカリキュラムやウェブを活用した情報共有により広がりを計画している。今後の成果に期待したい。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・外部人材や旅費などの経費を支援していることは、評価できる。
・研究開発課題に沿った事業実施が十分ではないので、管理機関の役割が果たせていないのではないか、検討が求められる。
・県として本校に期待するものは何か、県の政策をどのように結びついているのか、工業高校としての特性を生かしてどのようにその成果を広げていくのか、管理機関の具体的なフォローが望まれる。

学校法人静岡理工科大学　静岡北中学校・高等学校（管理機関：学校法人静岡理工科大学）
【Ⅲ期３年目】の中間評価結果について

１　中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

２　中間評価における主な講評

①　研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・研究開発部が中心になって企画・運営している。さらに、その中に創意実践課を設置し、週に１回、定例会、月に１回、運営委員会を開催し、職員会議で共有するなど、常にPDCAサイクルを回そうとしている。
・研究開発の主目的の一つである「課題発見力の育成」に関して、明確な成果と課題の分析・整理が望まれる。
・生徒の変容について、令和２年度のスコアが総じて低下していることも含め、全体的に高い評価であるとは言いがたい部分があり、一層の向上が望まれる。
・教師の変容について意識の向上が見られていることは感じられ、評価できるが、まだ課題等が多く、今後、これらの改善を積極的に進めていくことが求められる。
・課題の改善について、更に本質的な点について行っていくことが望まれる。成果の分析が抽象的になっている点は具体化が望まれる。
・過去３年間の卒業生の理系進路状況が減少傾向である点は、よく吟味されたい。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・学校設定教科「創意実践」を全学科に設定し、全校生徒が課題研究に取り組むカリキュラムとしている。
・課題研究について、Ⅲ期目として進めていく方法が定着しつつあるものの、テーマ設定に関する取組が不十分であると見受けられる。
・「探究入門」と「課題研究Ⅰ」をリンクさせて、生徒の学ぶ意欲を高めたり、探究の方法を習得させたりしている点は、評価できる。
・探究的な活動などを取り入れようとする授業事例が増えてきているなど、通常の授業における波及効果は、評価できる。
・探究を進めるための教材ワークシートは、今後、改善して、より良い教材にし、公開することが望まれる。また、その他の教材の開発の充実も期待される。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・全教員による課題研究の指導体制が構築されており、この体制をきめ細かく点検・評価しながら、今後も継続していくことが期待される。

・探究科目において、教科の枠を超えて複数指導体制をとることで、相談や情報交換がしやすい環境を作り、教師の連携、指導力の向上の努力が見られる点も評価できる。そこで得られた効果を普通教科に関連させて用いている点も評価できる。理科と英語以外の教科における連携の具体例も示すことが望まれる。

・一般的な授業科目なども含め、校内での授業研修等の実施が望まれる。また、それらの校外への公開、情報発信などを進めることも期待される。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・地域と連携して水質調査が行われており、継続的に進められていることは、評価できる。他の分野などにも広げていくことが期待される。

・静岡県児童生徒研究発表会は、まだ規模は小さいものの、取組の意義は大きいと考えられる。専門学科や総合学科の高校も含めた他の高校などとの連携も視野に入れつつ、拡充させていくことが期待される。また、高校生の役割も、発表者・参加者に留まらず、企画者・運営者としての役割にも広げていくことが期待される。

・自校の取組として、国際フォーラムの SKYSEF を主催し、国内及び海外の高校生と交流しているなど、国際的な取組について、参加や主催など積極的な活動が行われており、評価できる。

⑤　成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・年度当初に全教員の SSH 研修会を実施し成果を含め共通理解を図っている。

・探究科目の時間設定を統一することで教師間の情報共有を容易にしていることも評価できる。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・教員の配置や予算の援助などの一定の支援を行っており、評価できる。ただ、その支援が本校の取組や成果に明確に見えてくることが望まれる。

・管理機関が、例えば、大学教員に相談や指導してもらえるように調整するなど、手厚く支援を行っていることは評価できるが、課題研究の支援・連携をはじめ、更なる推進・充実・深化が望まれる。

愛知県立旭丘高等学校（管理機関：愛知県教育委員会）【Ⅰ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2　中間評価における主な講評

①　研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・SGH の財産の継承は大切だが、理数系の資質・能力の育成として不安が残る。SSH と SGH の趣旨の違いを踏まえた研究開発が求められる。

・生徒の変容を反応 R、学習 L、行動 B、結果 R の４段階のレベルで捉え、評価を４段階 20 項目で行うことの具体的な成果をまとめ、科学技術人材育成のプロセスとして整理して示すことが期待される。

・教師の変容に関する調査は、今後、すべての教師について行うべきではないか。改善が望まれる。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・普通科の全生徒に理科の４分野を履修させるなど理数系教育に重点を置いた教育課程を編成するとともに、国語科など他の教科・科目においても科学的評論文の読解など探究的な学習の充実を図っている。

・「目指すべき学習者像」についての共通理解を図り、「SS 科目」と「課題研究」を系統的に実践しているが、特に前者については、SSH の学校設定科目としての特色を明らかにすることが望まれる。

・「課題研究（基礎）」のリレー講義が課題発見や探究のプロセスを学ぶ手法として充実した内容か、明らかにすることが望まれる。

・課題研究の第３学年までの流れが教育課程として確立されつつあると感じるが、全体として理数系の課題研究へ生徒の興味・関心を育てていく流れにはまだなっていないのではないか、課題研究のテーマがビジネスプランからスタートすることで理数系のテーマが弱くなっていないか、吟味して改善することが望まれる。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・課題研究は、全てティームティーチングで行っている。生徒主体の課題研究は、10のテーマに分かれ、それぞれ専門に近い分野の教科の教師が指導している。
・大学生の OB・OG が課題研究の進捗状況に合わせて生徒に指導・助言をしている。これら TA の指導に当たっては、学校として指導に当たってのポイントや指導法などについての研修等が期待される。
・教師の指導力向上については、学校全体として取り組むことが望まれる。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】
・国内の大学との連携事業のほか、英国の大学の訪問研修、生徒が要望した講座など多彩な活動を行っていることがうかがえる。
・「高大接続生徒育成プロジェクト」が高大連携でなく接続の検討プロジェクトであることが期待される。
・科学系部活動は、参加生徒が増え、コンテストの参加等も充実しつつあり、活発に活動している。女子部員の割合も増えている。

⑤　成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・課題研究の開発教材や SS 科目の成果物などをホームページで公開している。また、数理科学部の活動や成果なども公開している。
・SSH 成果発表会を公開し、近隣の高等学校の教師等が講演会・ポスターセッションに参加するとともに、本校の教師が学会や学会誌、書籍等で各取組を発表しており、成果の発信に活発に取り組んでいる。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・SSH 指定校８校を幹事校とした「あいち科学技術教育推進協議会」幹事会及び協議会では準備段階から指導的立場として関わり、県内の SSH 指定校間及びその他の理数教育推進校の連携体制が発展するよう指導・助言を行っている。
・非常勤講師時数の加配措置や他の SSH 指定校で主任等の経験をした教師の重点配置などの支援を行っている。
・「科学三昧 in あいち」開催や「課題研究」をテーマにした課題研究教員研修会の実施など積極的な事業を展開している。探究活動と課題研究の指導力向上について、更に研修の機会を充実させるなどの取組が期待される。
・本校の特色を踏まえた特段の支援や広報についても配慮することが期待される。

三重県立桑名高等学校（管理機関：三重県教育委員会）【Ⅰ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2　中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・SSH 推進委員会による事業全体の企画及び進捗管理や分掌としての SSH 部の設置、定期的な会議の開催による情報共有など、全校体制できめ細かく実施している。

・成果について、探究のテーマやアンケート結果、部員数などを基に数値的な検証が行われており、一定の評価ができる。普通科に理系が増える実績も出ている。今後、質的な変容も検証する方向で改善することが期待される。

・SSH 事業開始直後に良い印象を抱いていなかった教師も生徒が生き生きと活動する姿を目の当たりにして意識を変えていっているとのことであり、評価できる。今後より具体的な変容についても検証する方向で改善を図ることが期待される。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・研究室制度が特色となっている。この制度が、柔軟に、かつ、探究を深める方向で運用されることが期待される。

・課題研究の評価法として、ルーブリックやポートフォリオ評価を開発している。ポートフォリオに基づいた生徒と教師の面談は、生徒の育成の点で評価できる。

・探究活動を意識して各教科の指導が行われている。ただし、全般的に端緒的なものが多く、今後、より実践的、具体的な内容改善へと進めていくことが期待される。

・開発した評価方法や指導方法を教材としてまとめ、公開している。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・各教科・科目の授業改善に係る取組の検証に、SSH 事業の推進組織に加えて、若手教師の AKP 委員会が当たっていることは、評価できる。

・「探究」を同一時間に配置し、教科にこだわらず、学年全体で指導する体制を構築していることや、SSH 部の担当を学年ごとに置き、連携していることは、評価でき

る。また、外部人材を必要に応じて招聘し、探究を進めるために活用している点も評価できる。今後は、連携の仕組みや関わり方をより生徒の主体性を深める方向で検討することが期待される。
・課題研究において、先輩が後輩を指導する形式を取り入れるなど、学年を超えた交流・指導による生徒の主体生・協働性の育成が工夫されており、評価できる。
・探究指導の研修、ポートフォリオ研修会など、教師の指導力向上のための取組を実施している。発表会の活用を含め、働き方改革が進む中、工夫して取り組んでいる。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】
・大学研究者の講演、大学等での実習、課題研究における助言等、複数の大学や研究機関との連携ができている。講義や研究室訪問と研究テーマによる相談を区別して行っている。大学入学後にどのような資質・能力が重視されるか、それを高等学校でどう育てるかを踏まえた更なる連携の強化､高大接続につながる取組が望まれる。
・部活動についても、自然科学部を「MIRAI 研究所」に統合し、部員数の増加に加えて、活動の幅も広がり、一定の成果も上がっており、評価できる。研究室制度とのつながりも評価できる。

⑤　成果の普及等に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】
・校内の研究成果の共有・継承は、SSH 事業推進組織が中心となり、若手教師の AKP 委員会とも連携して進めている。初めて課題研究の指導に当たる教師のサポート体制も組んでおり、指導方法等を毎年継承・改善していることは、評価できる。
・開発した教材をホームページで公開するとともに、県内の高校に向けコンソーシアムで発表して波及に取り組んでいる。SSH の活動をホームページやリーフレット、地域の広報誌等で発信している。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】
・管理機関として、人的・物的な支援がなされており、評価できる。
・SSH 指定 6 校での「SSH 指定校主担当者会議」を実施し、連携・情報交換の機会を設けて切磋琢磨できるようにしている。三重県内の高校 16 校による「探究コンソーシアム」で課題研究の指導や評価の方法に関する協議を実施したり、課題研究発表会を実施したりするなど、三重県での探究を進めていこうとしており、評価できる。
・「国際科学技術コンテスト強化講座」を SSH 指定校と共催しており、私立学校を含めて様々な学校・生徒が参加していることは、評価できる。

三重県立上野高等学校（管理機関：三重県教育委員会）【Ⅰ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2　中間評価における主な講評

①　研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・校務分掌としての「SSH 部」や、事業全体の運営を把握する「SSH 推進委員会」を設けるとともに、「課題研究担当者会議」を設置し、学校全体の取組とするために推進管理体制を考慮して SSH 事業推進にあたっており、評価できる。

・生徒の変容について、一定の成果が見られている。民間の評価ツールを用いた資質・能力の変容の分析は、改善・深化が望まれる。

・教師の変容については、取組に対する不安は軽減されているものの、学びの変容につなげることや学校全体の取組にするために一層の改善が望まれる。

・普通科の理系進学が減少傾向にあったことについては、その原因を詳細に探り、対応することが求められる。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・理数科、普通科それぞれにおいて、探究能力の基礎を養う学習プログラムを設定している点は、評価できる。「国際舞台で活躍する科学技術人材の創出」を標榜する「みらい探究Ｒ　Ⅰ・II」については、課題研究の質を高めることが特に望まれる。

・探究のプロセスを生かす取組を様々な授業で行っていることは、評価できる。授業時間を 65 分にすることで探究活動を行いやすくしている面もあると考えられる。

・ポートフォリオについてはオンラインの活用を進めているとのことであり、ICT を用いた簡素で信頼性のある評価の工夫が期待される。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・探究活動を同一時間帯に設定し、複数の教師、学年集団で指導する体制が編成されている点は、評価できる。本年で第 3 学年まで探究活動を指導することとなり、全校的な指導体制となったことで、教師の意識の高まりが期待される。

・外部人材の導入も図られているが、まだ形成段階と思われる。今後の連携の仕組みの形成が期待される。伊賀市で活躍する研究者の支援を更に拡大して定常化することが期待される。
・運営指導委員による研究授業の指導や教科横断型の研究授業、オンラインによる先進校視察など、教師の指導力向上のための取組がなされている。働き方改革の中で普段の実践とうまく連動させたより質の高い研修会を行うことが期待される。
・計画にある「地域の教育力を活用した授業改善」の推進が望まれる。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・地元の大学や地元企業と連携し、高校生に分かりやすい内容を設定しつつ、探究活動に関する取組を進めており、評価できる。また、体験講座を生徒が企画運営した、地域の中学校などへの成果の還元も評価できる。今後の継続・発展が期待される。
・他校との交流なども進めており、交流校との共同研究など、今後の発展が期待される。県内だけでなく、県外の他校との研究発表会を実施していることも評価できる。
・オンラインによる探究活動への指導・助言が受けられる体制が整い、成果が期待される。
・地域連携は、伊賀市と連携して地域課題の解決策を考えるなどしている。SSH として、科学的にデータを用いて課題解決の方向を示唆するなどの取組が期待される。

⑤　成果の普及等に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・取組を確実に継承していくために体制を確立させておくことが求められる。「みらい探究 R」、「みらい探究 F」の担当者同士の交流は良く行われており、また、担当者間だけでなく、全教師で成果を共有できるよう努力している点は、評価できる。
・校内での活動を地域等に発信する取組を進めている点は、評価できる。
・開発した教材をホームページへ載せることが望まれる。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】
・管理機関として、人的・物的な支援がなされており、評価できる。
・SSH 指定 6 校での「SSH 指定校主担当者会議」という連携・情報交換の機会を設けて切磋琢磨できるようにしている。三重県内の高校 16 校による「探究コンソーシアム」で課題研究の指導や評価の方法に関する協議を実施したり、課題研究発表会を実施したりするなど、三重県での探究を進めていこうとしており、評価できる。
・「国際科学技術コンテスト強化講座」を SSH 指定校と共催しており、私立学校を含めて様々な学校・生徒が参加していることは、評価できる。

学校法人大阪医科薬科大学　高槻高等学校・中学校
（管理機関：学校法人大阪医科薬科大学）【Ⅱ期３年目】の中間評価結果について

１　中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

２　中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・SSH 推進部を設置し、週１回の SSH 推進部会議を開催している。また、３つのワーキンググループに全教師を振り分け、それぞれのグループにすべての教科の教師を配置して、各事業で教科が連携できる体制を構築しており、評価できる。SSH 部でも、国語科や社会科、英語科の教師等がチームとして活動している。
・SSH 主対象生徒とそれ以外の生徒との間で比較し、SSH の成果を分析していることは、評価できる。卒業生の活躍状況の把握については、改善が求められる。
・主対象である GS コースの生徒を対象にした意識調査によって成果と課題を検証している。ただし、より客観的な評価方法となるよう工夫することが望まれる。
・運営指導委員からの助言を基に新たな取組を始めている。ただし、昨年度の運営指導委員の助言に対する対応はなされているか、判然とせず、検討が求められる。

② 教育内容等に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・GS コースでは、中学３年でプレ課題研究を実施するとともに、高等学校での課題研究を第１・２学年を同単位とし、同時開講して連携を図っている。
・「SS 生命科学」や「SS 地球科学」で生物・地学の学習の深化を図り、「SS 現代社会と科学倫理」でより現代の課題を考えるようにしている。
・課題研究のルーブリックによる評価の手法が様々な教科で活用されており、生徒自身のメタ認知や自己調整に役立っていることが見受けられる。
・「SS 科学倫理」のテキストや、ルーブリックの改良などを継続的に行っていることは、活用性や定着化に有効と考えられ、評価できる。

③ 指導体制等に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・全教科の教師によりアクティブラーニング推進チームを毎年結成し、研修会を通じ

て、教師が討議を行っていることは、評価できる。
・課題研究での学びを生かし、一般教科においても探究的な学習を行うための教員研修と実践の充実が期待される。
・全国の教師を募集して「アクティブラーニング公開研究会」を開催し、本校の取組を他校へ広げつつ、他校の教師からフィードバックをもらうことで指導力向上を図っており、評価できる。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・大阪医科薬科大学との高大連携事業を行うとともに、年２回の「高大連携運営委員会」や、年１回の「高大連携合同研修会」を開催し、その改善を図っている。
・「大学０年生講座」等を大学や企業等と連携して実施している。
・科学コンテストに向けた講座を開講し、科学系クラブに積極的に参加を呼び掛けたことで、結果的に部活動への参加も活発になり、全体の活性化につながっている。
・女性の医師や研究者を招き、理系や医系を目指す女子生徒のための座談会を実施している。

⑤　成果の普及等に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・ホームページで本校の SSH 事業について積極的に紹介するとともに、開発した教材を大阪府サイエンススクールネットを提供するなどしている。
・大阪府内の私立学校の教員集団で形成した「Teachers Meeting」を開催し、本校の成果を発信して理科・数学のすそ野を広げる取組を行うとともに、私学の研究発表会である「グローバルサイエンスフォーラム」の開催につなげており、評価できる。
・本校のノウハウや作成教材の他校による活用事例についても、期待したい。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・現大阪医科薬科大学管理指導委員会を定期的に開催して高大接続の在り方についての情報交換及び検証を行ってきている。
・教員採用においては、理科教員の定数増員を実現し、SSH 指定校出身者や、SSH での指導経験者、理系博士号所持者を採用して生徒の課題研究の質の向上を目指している。また、理科において女性教師を積極的に採用することで、理系生徒の将来のロールモデルとなる教師を確保してきている。
・地域全体の理数系教育の充実に向けた管理機関の関与の充実を期待したい。

兵庫県立宝塚北高等学校（管理機関：兵庫県教育委員会）【Ⅰ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2　中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・SSH 推進・評価委員会を中心に活動を行っているが、学校全体の事業としてより多くの教職員を巻き込む体制が必要である。

・客観的な評価となるような工夫が期待される。5 つの力をどのように評価するのか、教師の役割を明確にすることが望まれる。

・運営指導委員に教育評価に関する専門家を入れると良いのではないか、検討が期待される。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・GS 科生徒に対して課題研究を教育活動の柱として取り組んでいることは、評価できる。ただし、「GSⅠ・Ⅱ」の評価の在り方については、到達度が明確ではなく、工夫することが求められる。

・「テーマ設定実習」を明示して実施しており、生徒がテーマ設定の重要性を意識しその力を向上させるために役立っていると認められる。

・数学・理科・英語・情報の４教科の連携は図られているが、他教科との連携も望まれる。

・「リサーチプランの作成（基礎編・実践編）」など、特色ある教材の開発が行われている。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・Ⅰ期目ということもあり、全校的な指導体制の構築には戸惑いが見られる。しかし、校長のリーダーシップの下、GS を中心として今後に期待したい。教師の自己評価を踏まえて課題を整理することが望まれる。

・課題研究の類似テーマを選択した下級生に対して相談役やサポートを上級生が行う

メンター制や、論文や発表、背景理解、実験方法、文献調査などの指導助言・補助に卒業生を活用するチューター制は、評価できる。
・SSH を GS 科のみならず、普通科に拡張するためにも、課題研究の指導経験やノウハウのない教師が指導できるようになる体制を早期に確立することが期待される。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】
・第３学年の課題研究論文の査読を外部研究者に依頼しており、研究者の疑似体験できるようにしていることは、評価できる。
・様々な取組が新型コロナウイルスの影響により予定通り進まなかったことは、理解できる。しかし、オンラインの一層の活用等による新たな取組も期待したい。
・生徒が幅広い領域で活発に活動しており、今後もこの姿勢で取り組むことが期待される。
・様々な科学の大会での物理部、化学部、生物部の活躍がみられる。GS 科の生徒は原則として、コンテストに参加することになっているが、普通科の生徒の参加も増えるような工夫が期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・研究の進捗状況や成果について年間にどのように全職員で共有を進めているのか、全体の計画を明らかにすることが望まれる。
・「リサーチプラン研修会」の実施は、評価できる。
・開発した教材をホームページにあげることが望まれる。編集者（権限者）が１人しかいないことも課題ではないか、検討して改善することが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・本校の取組の成果を、他の SSH 指定校との違いも明確にして県全体に発信することが望まれる。
・運営指導委員の人選などは、もう少しサポートしても良いのではないか。

兵庫県立小野高等学校（管理機関：兵庫県教育委員会）【Ⅰ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2　中間評価における主な講評

①　研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・事業推進体制もしっかりしており、活動組織間の連携体制も整っている点は、評価でき、今後の発展が期待できる。

・成果の分析も適時行われており、改良も進展している。授業改善や生徒の評価の資料として使うことを前提に改良が加えられていることも評価できる。

・「独創性」についての検討・把握が十分ではなく、事業を通しての生徒の成長は認められるが、生徒の主体性や「イノベーションを創出する独創性」を育てる点では、不十分だと思われる。独創性の測定法も、しっかりとした研究が求められる。

・メタ認知に注目した学習について、より深い分析をして教育に生かす工夫をし、その成果を明らかにすることが望まれる。教師自らメタ認知について協力者と議論できるほどになることや、本校が主体的に研究を進める姿勢が求められる。

・事業の実施により科学コンテスト等への参加など生徒の積極的な活動、教師の意識改革が進んでいることは、評価できる。

・一つ一つの取組を有機的につなげて生徒が課題を発見して主体的に課題研究に取り組むような手立てをすることが期待される。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・Ⅰ期目として様々な設定科目を課題研究につなげようとする意図は十分理解できる。教科内容中心の「科学基礎」、実験・観察中心の「探究基礎」がどう課題研究につながっていくのか、その道筋を明確にすることが求められる。また、例えば、「科学基礎」で伸ばすことができた能力について、分析・検証して課題研究の質を高めるようにしていくことが求められる。

・探究活動用リフレクションシートの活用により、多角的に分析・評価を行っている。双方向に状況が伝わり、探究活動の深化が図られる運用が期待される。

・特色ある教材開発とその公開も進められており、評価できる。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・地元の企業の技術者などとも連携しており、評価できる。

・指導体制を改善しながら事業を進めていると認められる。サイエンスアドバイザーの方々がどのように生徒の課題研究の質の高まりに貢献しているのかを明確にしていくことが期待される。

・職員全体の協力と理解をどう得ていくのか、組織的に取り組むことが期待される。SSH 推進委員会におけるメンバーがどのような役割を果たしているのか、全校体制にするための機能を果たしているのかなどを常に検証することが期待される。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・オンラインも活用しつつ、大学や研究機関、企業との連携で様々な学習機会を確保し、生徒の興味や意欲を引き出す工夫をしている。

・台湾の高等学校とオンラインで英語による研究発表交流会を実施したことも評価できる。

⑤　成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・開発教材の校内 LAN を利用しての活用・改良や、探究論文集のアーカイブ化などの環境整備は評価される。将来に向けてのメンテナンス体制や活用範囲の拡大に向けた検討も望まれる。

・SSH 事業の探究活動で培ったノウハウの普通科の取組への反映は、評価できる。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・ICT 機器を備えた「探究ルーム」や「探究ラボ」の設置、兵庫「咲テク」事業による SSH 事業の活性化と成果の普及活動の支援等は、評価できる。人事にも気を配り支援していることも、評価できる。

・県内の SSH 指定校 14 校による管理機関の枠を越えたコンソーシアムを組織し、層の厚い探究活動や理数教育の推進が県全体でできていることは、評価できる。SSH 指定校以外にもどう課題研究を広げ、「理数探究基礎」や「理数探究」の開設につなげるかについても、県の具体的な支援が期待される。

学校法人武庫川学院　武庫川女子大学附属中学校･高等学校
（管理機関：学校法人武庫川学院）【Ⅲ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される。

2　中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

・SSH のあるべき姿を見つめ直すことが望まれる。理系の選択者が過去５年間で下がっており、理数系の課題研究を実施する対象生徒の全校生徒に対する比率が低い。校内における SSH 事業の意義を明らかにして取り組むことが望まれる。
・育てたい資質・能力について、生徒による自己評価ばかりでなく、教師側から評価するような研究が求められる。
・報告書には課題や問題点も整理することが望まれる。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

・CS コースの「科学探究」、「理数探究」、「MS タイム」の関係が評価を含め整理されていない印象を受ける。「科学探究Ⅱ」の校内での授業内容と大学での授業との関係性や課題研究との接続など系統性を吟味して明らかにすることが望まれる。
・「MS タイム」について、CS コースをはじめ、探究活動の内容を深めることが求められる。また、実施が隔週土曜日や放課後であり、やや継続性に欠ける点も改善が望まれる。
・教科・科目における単元毎のルーブリックを活用した評価と授業改善等を具体的に示すことが望まれる。
・指定後に教育課程の変更を行っているが、これまでの成果と課題を明らかにすることが望まれる。しっかりとした分析をしているだろうか。変更した成果について科学技術人材育成という視点からの検討が望まれる。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見

直しを要する】

・ワーキングチームの設置により指導体制を確実にしたとのことだが、その趣旨を具体的に明らかにすることが望まれる。

・各コース、科目等ごとの教師の体制を整理して明らかにすることが望まれる。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・課題研究における母体の大学との連携は、世界健康フォーラムでの発表など具体的な成果を上げているが、大学との連携が形だけのものにならないようにすることが望まれる。

・SMART の連携が深まっているか、明らかにすることが望まれる。

⑤　成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

・校内における SSH 事業の共有・継承が年度当初の職員会議での報告や月１回の「MS 通信」発行等で可能か、吟味して明らかにすることが望まれる。他の SSH を参考に工夫を考えることが望まれる。

・研究成果の発信は、行われているものの、Ⅲ期目としてもう一段高いレベルが求められる。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

・全館 WiFi 環境整備、全教室授業録画装置整備、卒業後も利用可能なクラウドサービスの提供など ICT 環境の整備に関する積極的な支援を実施している。

・データサイエンス類型の設置に伴う教員配置支援や、財政支援を行っている。

・様々な方法で理系の女性の人材育成の充実・拡大に貢献することが期待される。

・大学との関わり、特に大学側が高等学校のカリキュラムにどのようなことを期待し、支援しようとしているのかを明確にすることが望まれる。管理機関に大学との連携業務に積極的にイニシアチブをとってもらうことが期待される。

岡山県立岡山一宮高等学校（管理機関：岡山県教育委員会）【Ⅳ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2　中間評価における主な講評

①　研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・校長のリーダーシップの下、SSH 戦略室を中核としつつ、プロジェクトチームを編成して、全校体制での組織的な取組が展開できている。

・運営指導委員会での意見を誠実に受け止め、改善すべき点を改善していっている。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・iC（一宮高校で育てる５つのコンピテンシー）やそれに基づいた iC コアカリキュラムを設定しており、評価できる。各教科で使いやすい iC ルーブリックの作成の具体化を期待したい。通常の各教科での探究的な学びの一層の推進も期待される。

・全ての教科で iC の育成を目指している点は、評価できる。ただし、教科横断型の授業については、数学と公民に加えて、その他の取組への広がりにも期待したい。

・課題研究を柱とした教育課程の編成について、Ⅲ期までの成果と課題を踏まえた改善が具体的に実施されている。特に、生徒個人の振り返りを目的とした「研究記録自己評価表」、グループ単位での「理数探究の記録」など工夫をし、生徒と教師との双方向性に配慮した指導が展開されており、評価できる。

・学校全体として探究を進めていこうとする意欲は十分に伝わってくる。探究的な学習活動の評価をきちんと行うために開発したルーブリックで行い、客観性を高めていることも評価できる。

・iC コアカリキュラムの教材を開発しており、評価できる。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】

・理数科２年の「iC 理数探究Ⅰ」における、教師の指導力向上を目的とした「SSH 課題研究指導記録」の作成など、工夫している。「SSH 課題研究指導記録」の作成は、

指導の継承という点で評価できる。
・地元の大学を中心とした外部講師による指導の充実がうかがえる。留学生の活用も評価できる。ただし、高校生の主体的な探究のサポートになっているか、外部講師の関わり方については、よく検討することが望まれる。
・課題研究のグループが上手く編成されていることがうかがえ、評価できる。
・「いちのみや探究デー」（授業公開）の実施や、ルーブリック作成など多様な展開がなされ、通常の教科指導でも探究的な学びが行われる仕掛けがあり、評価できる。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】
・地元の大学との連携が広く行われており、探究科目だけでなく、大学の講義、留学生との交流など様々な取組がなされていることがうかがえ、評価できる。複数の大学での研修プログラム等も評価できる。
・企業訪問研修では、単なる見学にならないよう、生徒の疑問や探究心を醸成する事前指導に配慮がうかがえる。企業訪問研修と、課題研究や教科・科目の学習との接続が可視化されることが望まれる。
・他校の専門学科との共同研究や、公民館や中学校との連携など、幅広い地域連携を推進しようとしており、農業科との共同研究は具体的な成果を上げている。今後、計画をしている工業科等との連携事業等への発展を期待したい。

⑤　成果の普及等に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】
・全体的に研究成果の共有・継承について、よく考えられており、継続性がうかがえる。iC コアカリキュラム PT の中に課題研究企画グループを位置づけるなど、体制として共有・継承を図っていることが見受けられる。
・「いちのみや探究デー」が研究成果の普及・発信に有効に機能している。他校の教師の指導力向上への寄与が顕在化することも期待される。今後の継続を期待したい。
・「iC データ＆ロジカルサイエンス」などの成果や課題研究の紹介動画をホームページ等で公開するなど、研究成果の普及や発信を積極的に行っている。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】
・管理機関と県内大学等で覚書を交わし、課題研究等の指導や研究機器の利用に生かしている。人的な配置についても充実していることがうかがえる。
・「高大連携理数科教育研究会」では、大学入学後どのような資質・能力が重視されるか、そうした資質・能力が身に付いているかをどう測るかをしっかり議論することを期待したい。

徳島県立徳島科学技術高等学校（管理機関：徳島県教育委員会）【Ⅱ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2　中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・SSH 推進委員会を軸に進捗管理表を基に組織的に研究開発が行われており、研究内容の高度化やカリキュラム開発、主体的な研究テーマの決定にも積極的である。期待する方向への生徒の変容も認められ、研究計画がよく進捗している。

・教師の「連携」への意識が低下していることの原因を明らかにすることが望まれる。

・SSH の研究開発組織とその他の分掌や教科との関係が分かりにくい点は、改善が求められる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・実業高校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントが見られる。学校の特色として専門高校から理系大学への進学に対応した教育内容と認められる。

・「SSH 工業技術基礎」・「SSH 水産海洋基礎」と代替される通常の科目との違いを明らかにすることが望まれる。

・成果発表会や課題研究インタビューなど、学内での学年を超えた交流、継承が行われており、評価できる。

・理工学コンピテンスの評価の具体を明確にすることが望まれる。14 の力は、多すぎるのではないか。また、具体的な評価のプロセスを示しておきたい。教師間の評価のすりあわせに当たり、明確な評価の基準の違いを適切・十分に共有することが望まれる。

・課題研究の成果を通常の授業に活用する方向は、認められる。

・生徒との対話ツールとしての SCITEC-HI ノートの有効性は理解できるが、生徒記載のテーマ設定・目的・結論を見ると、活用法に検討が求められる。記入の方法に留まらず、書くべき視点を明確にするような助言も求められる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・「SSH 課題研究」は、少人数での指導ができる体制を整えている点は、評価できる。ただし、水産科、工業科の教師と理科の教師の連携が行われているが、今後、普通科の教師のより一層の関わりが求められる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・専門領域に応じて、地域に密着した取組が見られる。大学だけでなく、県や企業から学ぶ機会を取り入れていることは、生徒の将来を考えた場合、評価できる。
・学類によっては、連携による取組が少ない点、生徒の主体的な活動が見られない点、他県の大学との連携がない点は、改善が求められる。
・徳島県内の普通科高校との連携について、明らかにすることが期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・YouTube の「SCITEC－HI チャンネル」など、ホームページの充実等も図られており、校外への広報にも注力していることがうかがえる。ただし、地元の普通科への情報発信、地域や中学校への広報活動については改善・充実が期待される。
・SSH 事業の継承について触れられていない点は、改善が求められる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価
【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・教職員の配置等で支援をしていることが認められる。ただし、本校の研究開発の内容を踏まえた支援には、改善・充実が求められる。
・数学科の指導主事の関与がないのはどうしてか。
・県内の高等学校だけでなく、小・中学校へのアピールも期待したい。

徳島県立富岡西高等学校（管理機関：徳島県教育委員会）【Ⅰ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される。

2　中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

・計画書にある「グローカルな視点に立ち、科学的思考によって課題を発見する力」、「他者との協働により、課題を解決する行動力・コミュニケーション力」、「未来につながる新しい価値を創造する力」を育てる計画かどうか、吟味して改善し、そのような方向への生徒の変容がわかるように示すことが求められる。

・本事業の具体的な目的や目標を明確にし、それを教師間で共有して実施計画を具体化することにより、事業の改善が図ることが望まれる。

・新型コロナウイルス禍の影響が大きく、計画が延期・中止になった項目が多くみられる。今後の取組に期待したい。

・目的を持ったプロジェクトチームが編成されており、これらのプロジェクトチームを中心に教師の意識の高まりも見られる。特に、校長のリーダーシップの下、全教員が SSH 事業に関わろうとする姿勢は、今後の一層の活動成果が期待される。

・長期的な評価のプロセスを明確にして示すことも望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

・普通科も理数系の科目を積極的に設置しており、それぞれの内容も主体的・対話的で深い学びへの意識が感じられる。ただし、「主体的」をどう捉えるか、授業案のどの部分が主体的・対話的で深い学びの実現に向けて特に留意しているか、SSH のどの目標に沿うものかといった点については、改善が求められる。

・科学的な思考力が伸張しているか。課題研究を深化させる取組について明らかにすることが望まれる。

・課題研究に数学のテーマがない点、数学の教師の関わりが明らかでない点は、改善が求められる。

・教師間の評価のすりあわせを具体的にどうするか、明確にして示すことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

・事業計画の明確化と共有を図った上で、それを踏まえた校内の指導体制の改善・充実が求められる。

・教師の指導力向上に向けた授業参観、研究授業等については、SSH 事業として研究協議する観点を明確に示すことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・グローカルの視点を重要視した SSH の取組として、地域の企業、大学等との連携は見られる。ただし、アンケート結果では、教師と生徒のグローカルに関する関心にはずれがあると見受けられる。

・先進的な理数系教育・高大接続の改善に資する研究については、改善・充実が求められる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・校内での情報や成果、課題の共有・継承・分析については、改善が求められる。

・SSH の取組を、ホームページに掲載するとともに、「TN-SCOPEnews」として広報誌を作成し、市役所・公民館・郵便局等で配布し、地元に PR している点は、評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

・徳島県内全体の高等学校の理数教育のレベルアップにつなげる工夫が求められる。しっかりとした指導・援助体制が望まれる.

・本校で育成しようとする３つの力を育成するための県としての支援については、改善が求められる。

宮崎県立宮崎北高等学校（管理機関：宮崎県教育委員会）【Ⅳ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2　中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・学校の管理体制として、種々の担当者、委員会を設置して対応していることはうかがえるが、横断的な関係が明確になっていることが望まれる。
・教師が申請して採択された外部助成金が充実してきていることは、評価できる。それらと授業改善や指導力向上等との関係を明確にすることが望まれる。
・４つの開発 Stage の上位の Stage への移行について、対象となる集団だけでなく、評価規準や評価方法を明確化することが望まれる。
・運営指導委員会の３部構成には、内容の方向性があり、評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・全校的なカリキュラム・マネジメントの視点を更に取り入れることが望まれる。
・サイエンス科、普通科それぞれにおいて、目的を明確にして、主となる探究活動に、それぞれの特異性を生かした、様々なプレ探究活動を組み合わせて探究能力を総合的に育成するカリキュラムを編成している点は、生徒の変容も見られ、評価できる。
・普通科の課題研究のテーマ設定の現状を分析し、より生徒の興味・関心に基づいた自然科学を含めた研究テーマに発展できる工夫を期待したい。
・課題研究の評価法の開発が具体的になるような工夫を期待したい。
・理科以外にも、英語や保健体育、情報との連携が探究活動の推進に生かされ、評価できるが、その他の教科との連携についても積極的に検討することが望まれる。
・サイエンス科ではビルドアップ型、普通科ではブレイクダウン型という研究開発の考え方は、評価できる。
・様々な教材や資料を作成していることは、評価できる。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・教師同士の連携がより見える形で成果を示す方策を検討することが望まれる。
・一定の校内研修の実施は、評価できる。探究的な学習の指導力向上に向けた研修を充実し、課題研究に係る科目やその他の科目の指導に生かすことが望まれる。
・課題研究の授業の前に「指導者ミーティング」を実施し、「生徒リフレクションカード」「メモシート」を用いつつ、指導方法等を共有することは、評価できる。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・県内の各種施設や研究機関、企業などと連携した多種多様な取組は、評価できる。ただし、より探究につながる連携につなげていくことが望まれる。
・外部との連携は、何らかの視点等に基づき整理・分類・可視化することが望まれる。
・科学部の部員数が増加しており、また、生徒が各種大会にも積極的に参加し、優秀な成績を収めたり、外部資金を獲得するために積極的に応募したりしており、評価できる。大会案内ファイルの提示の仕方等を工夫していることも評価できる。
・オープンラボの活用が活発であり、それによる課題研究の深化は、評価できる。課題研究の指導法や科学部との関係等を精査し有効な活用になる工夫を期待したい。
・ACT-SI の第２学年の秋以降の外部大会への参加の義務化については、その課題もよく抽出・分析し、生徒に応じた指導・支援を充実していくことが望まれる。

⑤　成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・研究開発の成果について、その共有を ACT-LI 以外でも継続的に行ったり、研修に生かしたりすることが望まれる。
・ACT-LI について定期的に連絡会を開催したり、種々の取組に対して記録を丁寧にとったりしており、研究成果の共有・継承としても評価できる。
・ホームページが活動記録中心だが、各事業の成果と課題をまとめた内容を記載し、教材やカリキュラム等の研究開発の成果の発信を進めていくことが望まれる。
・研究成果の普及等に積極的に報道機関等を活用している。そのために必要なマニュアルを作成しており、評価できる。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】
・担当者の増員等、SSH 指定校を後押しするために一定の体制の強化を図っており、評価できる。
・県の理数系教育の充実に向けて本校の位置付けのより具体的な明確化が望まれる。
・Ⅳ期指定校としての成果と課題を県レベルで明確にするとともに、より具体的な支援を期待したい。

沖縄県立向陽高等学校（管理機関：沖縄県教育委員会）【Ⅰ期３年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2　中間評価における主な講評

①　研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・「SSH 委員会」、校務分掌である「SSH 研究推進部」、「SS 課題探究担当者会」等の組織づくりをし、SSH 事業を学校全体で進めており、評価できる。

・学校独自に、生徒対象のアンケートや SSH 科目担当の教師と非担当の教師への意識調査の比較など、工夫した評価をして、成果と課題を分析しており、評価できる。特に教師の意識の変容については、今後の更なる改善を期待したい。

・普通科、理数科ともに、理系進学者が SSH 指定後に減少しており、この原因を究明し改善することが求められる。

・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で計画通りに進められない課題に対しても、様々な困難はあると思われるが、更なる工夫が期待される。

・運営指導委員会の委員の多くが大学関係者だが、地域や企業の人を加えたらどうか、検討が期待される。

②　教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・課題研究を中心に探究を進めるためのカリキュラム編成がなされており、評価できる。理数科で、学校設定科目を３年間で系統的に配置して科学的な探究心を育成するとともに、自然から学ぶ体験を重視したフィールドワークを多く実施しており、評価できる。

・普通科、特に理系への取組の拡大が期待される。国際文科・普通科の第１学年全員が探究成果を大学主催シンポジウムに動画発表するなど、授業での課題研究の成果をもって様々な生徒研究発表会に参加し、成果を得ていることは、評価できる。

・「単元を通して思考を深める発問」の取組等、５教科で探究型学習への授業改善を積極的に進めており、他教科への拡大が期待される。

・作品レポート集や生徒研究発表会を通して研究成果を異学年で共有しており、評価できる。特に、第１学年が第２学年の発表を視聴し生徒用ルーブリックを用いて評価することは、第１学年が研究の視点を得ることにもなり、評価できる。

・特色ある教材を作成しており、評価できる。

③　指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・各学校設定科目で、複数の教師が連携をとりながら運営しており、評価できる。

・教師の指導力向上のため、校内外の研修や、先進校視察を行うとともに、先進校視察の結果を校内研修で共有しており、評価できる。今後、更なる取組が期待される。

④　外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

・大学、研究機関など複数の外部連携を行い、生徒の意識や研究の質の向上につなげており、評価できる。また、生徒に分かりやすい内容とし、興味をもちやすい工夫をして実施していることも評価できる。

・大学や研究機関の研究者による特別授業は、連続性のある、テーマを深めるものとすることでより効果が大きくなるのではないか、検討が期待される。

・サイエンス部も活発化し、部員数が増加している。生物分野の複数の研究グループがそれぞれの研究を進め、発表会に参加して優秀な成績を収めるようになってきており、今後の活躍が期待される。

⑤　成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・SSH 通信は、回数や内容が充実してきており、評価できる。普及・発信の意義を考えて更に取組を進めることが期待される。

・フィールドワークブック等の特色ある教材をホームページで発信しており、評価できる。

・教師間で研究開発の成果について共有・継承ができているかが判然としない点は、改善が求められる。

⑥　管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

・SSH 担当教頭、SSH 研究主任加配、非常勤講師（理科）の各 1 名配置等による人的支援、ラボ室新設等による物的支援等、充実しており、評価できる。管理機関として継続的な支援が期待される。

・地元の大学と連携した、理数系人材の教育・育成のために教師間の情報交換会や生徒のポスターセッションの企画、「沖縄県高等学校科学教育連絡会」の設置、高校生向けの海外サイエンス研修等、積極的な理数系教育の展開は、評価できる。

学校法人立命館　立命館高等学校（管理機関：学校法人立命館）【Ｖ期２年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって，研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2　中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

・国際科学教育の有益な手法の開発と海外理数教育重点校のネットワークの構築は，評価できる。

・新型コロナウイルス禍において，長年積み上げてきた JSSF などの取組についてオンライン化しながらも充実・深化に努めており，評価できる。オンラインと対面での開催のメリット・デメリットを整理し，両者の相互補完システムを構築するなど，更に発展・拡充するとともに，その成果や工夫を全国に公開・普及することを期待したい。

・国際共同課題研究の普及に向けた，国内参加校がそれぞれ果たす役割の明確化なども全国への普及に当たり参考になると思われる。

・「科学への認識調査アンケート」等，成果分析には様々な工夫がみられる。

・「SSH 教育推進機構」を中心とした事業の推進や，「国際共同課題研究センター」の設置に向けた取組は，評価できる。ただし，それらの組織の体制や取組をより具体的に示すよう改善が求められる。

② 教育内容，指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

・単位数を含めた課題研究の充実や，高大接続を前提とした卒業までの課題研究の実施などこれまでの SSH 事業の成果を生かした取組は，評価できる。一方，理数系の課題研究の質の向上についても，評価を明確化し，改善することが求められる。

・教師の指導力向上に関して，課題研究科を中心にした学内での取組や，大学の理工学部や教職大学院との連携など，幅広く展開されており，評価できる。

・SSG クラスの課題研究に関する指導体制などは，優れた実践として評価できる。ただ，TA 等の活用については具体的な指導の実態を明らかにすることが望まれる。

・課題研究の展開が大学依存にならないようには留意してほしい。また，課題研究のテーマの偏りが見られるので，改善すべき点がないか，吟味が求められる。

・MS コースの生徒についても，希望参加だけでなく，コースとしての科学技術人材育

成の取組を期待したい。

③ 外部連携に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち，特に程度が高い】

・外部連携に関して，総体的に充実した展開がなされているが，公立高等学校との連携の拡大にも取り組んでいただきたい。

・国際共同課題研究の実施に伴う国内校・海外校との連携は SSH の成果の一つとして評価でき，JSSF への大きな波及効果も期待される。

・「課題研究指導方針協議会」で色々な議論を行っている。大学としての高校への支援の在り方について議論する環境があることは評価できる。ただ，高校生が科学者として成長していくということを踏まえて個々の生徒の伸長に高校教員・大学教員としてどう関わるのか，という視点はどうか。単なる大学教育の先取りとならないように留意したい。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

・国際共同課題研究の実施に伴う連携を使った成果の普及は特に評価できる。他校での「国際サイエンス・フェア」や「国際共同課題研究」の開催に向けてのノウハウの提供についても積極的な対応を行っている web 会議システムやコミュニケーションツールを使ったオンラインの連携も評価できる。

・国際共同研究や国際会議が公立にも普及するために，普及の方策の工夫と改善に一層期待したい。

・次年度には，国際的な企画の運営等に参考となる事例をまとめた冊子を活用したり，さらに輪を拡大するとのことで期待したい。

・HP に開発した教材等の公開を組織的，構造的に，積極的に行ってほしい。

・京都府内の国公私立をはじめ，理数系教育の充実に向けて，私立に限らず，幅広い成果の普及に取り組んでほしい。

⑤ 管理機関の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

・SSH 事業を円滑に行うための，2 名の教員枠加配や事務職員の配置，必要に応じた予備費執行等を行う等，人事面・財政面からの研究開発への支援等を行っている。

・行事の実施・施設の改善など多くの面で当該校の SSH 事業の推進へ向けて管理機関の一貫教育部が附属校と各大学の連携を進めている。当該校の取組を普及させるための取組や他の附属校と共有させる仕組みも作っており，評価できる。

・立命館大学の理工学部や，教職大学院と連携している点も評価できる。

愛媛県立松山南高等学校（管理機関：愛媛県教育委員会）【Ｖ期２年目】の中間評価結果について

1　中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって，研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの，併せて取組改善の努力も求められる。

2　中間評価における主な講評

①　研究開発計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

・半数以上の教員で構成される校内 SSH 委員会の下，各業務を各部署・各教科に割り振り，SSH 推進課会と理科会を毎週定期的に合同で行って情報交換や共通理解を図るなど，事業改善を図りながら事業を推進している。ただし， SSH 推進課の位置付け・各業務への関与の度合いを分かりやすく示すことが望まれる。

・独自の指標を用いて企画した事業を評価する手法を開発して事業改善を行っている点は評価できる。

・理数科が定員を充足していない理由の検証とともに，理数科の魅力を地元に伝える方策，理数科の課題研究の質の一層の向上につながる取組が求められる。

・運営指導委員が一部の大学に偏り過ぎていないか。長く当該校の SSH に関わるという視点も大切だが，新たな視点から指摘をする委員も必要ではないか。

②　教育内容，指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

・「データサイエンス」は，文理の枠を超えた「データ利活用人材育成」として成果が認められる。ただし，課題研究の質が具体的にどう向上したか，実証性や再現性の向上といった基準を明確にして評価し,探究過程のモデルを示すことが望まれる。

・教科横断型授業に関しては，カリキュラム・マネジメントの視点から年間を通しての指導計画を作成するなど，具体像を示し充実させていただきたい。

・授業公開での成果と課題を普段の授業にどう生かしているかも明確にしてほしい。

・当該校として，教師や外部の指導者，メンターである卒業生それぞれの役割をどう位置付けているのかを明らかにしてほしい。

・授業改善委員会を設置し，課題研究に関する研修，ICT 活用研修，公開授業などを積極的に行っている。

③　外部連携に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち，特に程度が高い】

・複数のグループが地元の大学の研究室で継続した研究を行うことができるシステム（MGP)を構築したり，卒業生勤務の大学研究室と連携して直接指導や遠隔指導を受けることができるようにしたりしており，評価できる。

・「データサイエンス」で地元企業３社とのデータマーケティング教育プログラムを実施するなど評価できる。ただし，テーマに SSH の視点を加味してほしい。

・連携に当たっては，高等学校側の主体的な関わりが期待される。大学や企業の研究の手伝いや基本的なデータの収集の仕方や実験技術などの訓練になりがちといった傾向がもしあるならば課題と考える。

・高大接続科目（「数学入門」など）を拡大させるなど外部連携に取り組んでいる。

・台湾や米国の連携高校の生徒と情報共有・情報交換に継続して取り組む体制を構築し，国際共同研究等を行っており，評価できる。新型コロナウイルス禍の中で新たに海外の大学や高等学校と連携した宇宙開発プログラム等をスタートさせている。

④　成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち，特に程度が高い】

・広域的な生徒研究発表会や教員・生徒の研修会等の運営に中心となって関わるなど，当該校の実績を普及させていく姿勢をしっかりもっており，成果も上がっている。

・SSH 指定校経験教員及び SSH 指定校出身教員を組織化した「えひめ課題研究支援ネットワーク」を構築し，教員研修や生徒研修を行っている点は評価できる。教員版メンターの活用は期待できる取組である。ただし，他の教員への波及効果に対する実績も評価していただきたい。

・SSH 専用ホームページを開設し，探究活動に活用できる教材を積極的に公開するとともに，英語ページの開設により海外連携校への情報発信を可能としているなど広報活動が活発に行われ，多くのアクセスを得ている点は，評価できる。理数科・普通科ともカテゴリー別に課題研究のテーマを累積して公開していただきたい。

⑤　管理機関の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

・具体的に，教員の加配や，増員された ALT の優先的な配置など人事面でもしっかりとした支援を行っている。

・理数教育の充実のための行事も数多く実施しており，全体として評価できる。ただ，それらの行事の運営を当該校が請け負うことで，教員の負担等の点で課題はないか。